事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39300	地域子ども教室事業

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	139	地域子ども教室事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	特になし			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

・小学校3年生から6年生までを対象に、平日は、市内15校で万華鏡、キーホルダー等の教室を開催。土日は、公民館等を利用した　子ども英会話教室、子ども囲碁教室、ものづくり教室、料理教室を開催する。(教材費は参加者負担)
・講座を通して親子のふれあいや地域の方々との交流を深め、学校・家庭・地域で協力し合い、子どもたちの教育環境を充実させる。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

地域の大人の協力を得て、学校や公民館等を活用し、子供たちの活動拠点(居場所)を確保し、放課後や週末等における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を支援する事業として開始した。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

少子化や家庭環境の変化、地域の教育力の低下等、子どもたちを取り巻く社会的環境の変化が著しいため、学校、家庭・地域が連携を図り、教育環境を充実させる必要がある。
子どもたちが安全に安心して過ごせる子どもたちの居場所づくりや、他校児童や異学年間の交流を通じて、楽しく学びながら豊かな人間性やコミュニケーション能力の育成を望む声がある。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動		提供するモノやサービス		成果		施策の展開		基本施策		基本目標
地域子ども教室を開催する。	➡	小学生を対象に体験活動の機会を提供し、教育環境を充実させる。	➡	充実した体験活動を経験し、異学年交流を通じて人間性・社会性を育む。	➡	青少年の健全育成の推進	➡	青少年の健全育成の推進	➡	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

【地域子ども教室の開催】
平日放課後の小学校での体験活動
・キーホルダー、万華鏡、アクアキャッチャー、ポップアップカード作り

【子ども向け講座等の開催】
公民館等において子ども向け講座等の開催
・子ども書道教室、ぬいぐるみ人形劇、子どもミュージカル、子どもシアター等の開催

② 活動指標

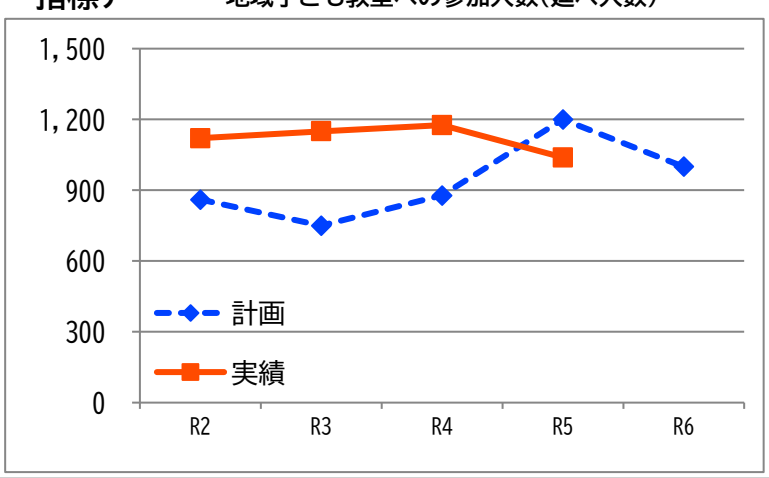
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	地域子ども教室の開催回数	回	計画	40	46	56	60	38
			実績	36	51	67	65	
イ	地域子ども教室子ども向け講座の開催回数	回	計画	92	8	30	42	61
			実績	8	25	43	44	

③ 成果指標

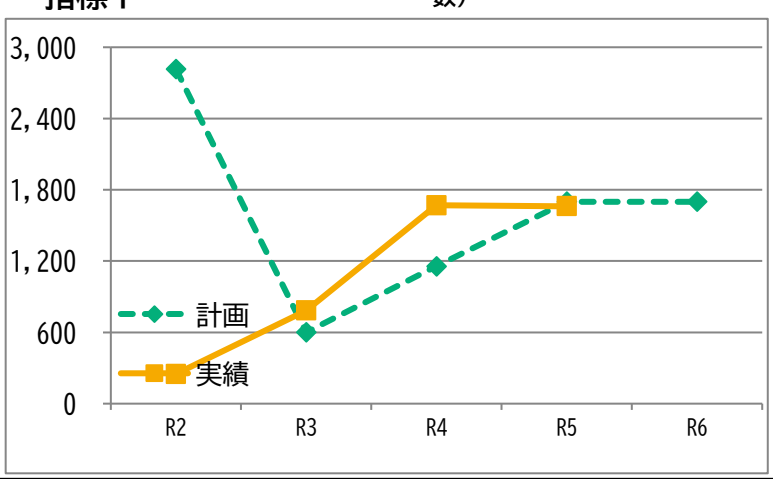
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	地域子ども教室への参加人数(延べ人数)	増やす	人	計画	860	750	878	1,200	1,000
				実績	1,120	1,150	1,176	1,039	
イ	地域子ども教室子ども向け講座への参加人数(延べ人数)	増やす	人	計画	2,816	600	1,156	1,700	1,700
				実績	250	784	1,670	1,662	

④成果指標の動向

指標ア　地域子ども教室への参加人数(延べ人数)



指標イ　地域子ども教室子ども向け講座への参加人数(延べ人数)



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 報償金	237	292	527	471	550
	2. 公演委託料等	72	1,342	1,365	1,488	1,492
	3. 諸借上料		111	24	100	165
	合計	309	1,745	1,916	2,059	2,207
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他		1,276	1,276	1,386	1,386
	一般財源	309	469	640	673	821
	一般財源の比率	100.0%	26.9%	33.4%	32.7%	37.2%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	7	人	×	15	日	=	延べ	105 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.報償金	講師謝金
2.公演委託料等	公演事業賄い、チラシ印刷代、公演委託料
3.諸借上料	上映作品賃借料

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	地域振興基金繰入金

⑤ R4→R5 増減理由

・講師謝金の減少
・上映作品賃借料の増加（R4は無償貸与のDVDを使用したため）

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	停滞	コロナ禍が明けて、様々な行事が復活し日常生活が戻ってきた中で、子ども工作教室が放課後に実施ではなくなっている。また、公民館で開催している子ども書道教室等の講座についても、放課後や週末の過ごし方が以前より多くの選択肢を持つことができるようになったため、参加人数が伸び悩んでいる。 今後も、講座等を夫して参加者の満足度が高くなるよう内容を充実させていく。

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	伸び悩み	小学校の放課後に実施する、地域子ども教室事業は、コロナ禍が明けて学校の行事が復活し、R4年度と比較すると地域子ども教室にかけられる時間が減少したため開催回数及び参加人数が減少した。 参加者の満足度を高めるよう内容を工夫していく。
	指標イ	伸び悩み	R4年度は2講座開催した「子ども書道教室」が1講座に減少したことにより、講座開催回数及び参加人数が減少した。 講座等の内容を工夫し、より魅力ある講座を実施する。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		今後も、放課後や週末の子どもたちの居場所づくりや親子のふれあい、体験活動の場として地域子ども教室を実施していく。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39500	二十歳のつどい開催事業

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	134	成人式開催事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	令和４年度			
根拠法令	特になし			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

対象年度内に20歳を迎える方(市内及び学生等で市外へ転出している方)を対象に「大人として自覚を促し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます」ことを目的とした事業。

開催日は、1月の成人の日の前日の日曜日。時間は午前10時から午前11時まで。開催場所は、東総文化会館大ホール。

【式典の流れ】

1. 開式の辞(実行委員)、2.国歌静聴、3.式辞(旭市長)、4.来賓祝辞(県議、市議会議長)、5.記念品贈呈、6.意見発表(各中学校卒業者代表1名:計5名)、7.恩師から(各中学校恩師1名:計5名)、8.思い出のスライド上映、9.実行委員長謝辞、10.閉式の辞(実行委員)

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

成年年齢が18歳に引き下がった後も、旧成人式を引き継ぎ、対象年度内に20歳を迎える方に「大人として自覚を促し、自ら生き抜こうとする青年を励ます」ことを目的として開始した。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

少子化の影響から対象者が減少し続けている。

市中学校合同文化祭と二十歳のつどいを繋ぐ取り組みとして、中学校3年生時に、二十歳のつどい実行委員の選出や「自分への案内状」を作成しているが、コロナ禍により、合同文化祭が中止となっている。また、自分への案内状は、現住所との照合が煩雑すぎるのと、5年前とは家庭状況等も変化しているため、見直しの検討が必要である。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
二十歳のつどい実行委員会を立ち上げて、式典の企画や運営を行う。	実行委員会を開催し、式典内容の協議を行う。また、委員が中心となり、出演者(意見発表等)等への依頼や調整を行う。式典内容が決定した後は、実行委員会でリハーサルを実施する。	実行委員会が主体となって活動することにより、参加者にとって式典がより身近になり、大人となったことを自覚する機会となる。	青少年の健全育成の推進	青少年の健全育成の推進	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

【実行委員会の立上】
・式典の企画を協議
・意見発表者の選出
・思い出にスライドの制作

【式典の運営】
・企画した式典の役割決定
・式典のリハーサル及び当日の式典の運営

【その他】
・二十歳のつどい参加者:502名
(H30年度市内中学校卒業生:574名)

② 活動指標

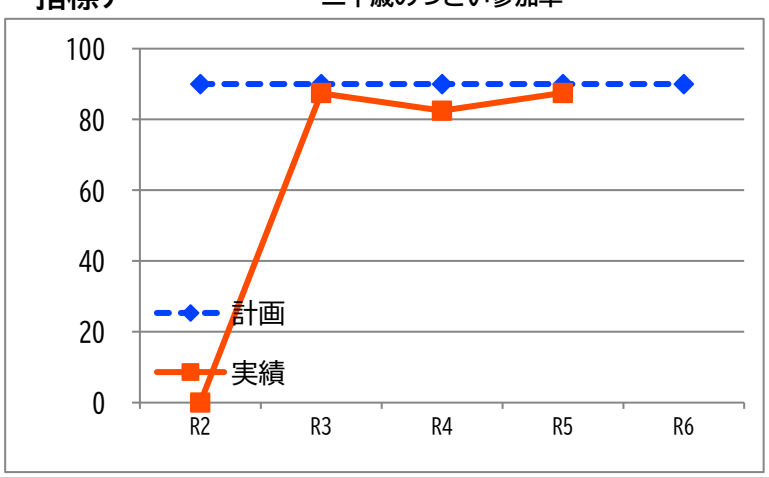
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	二十歳のつどい実行委員数	人	計画	－	－	5	26	27
			実績	25	26	22	19	
イ	式典の企画数	人	計画	－	－	9	10	10
			実績	8	9	10	10	

③ 成果指標

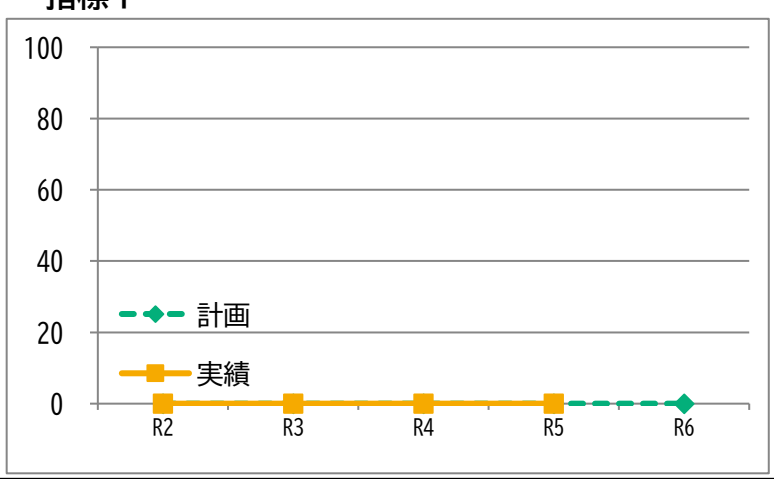
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	二十歳のつどい参加率	増やす	%	計画	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
				実績	0.0	87.4	82.5	87.5	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　二十歳のつどい参加率



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 報償費	839	735	631	935	1,058
	2. 需用費	394	51	60	77	71
	3. 役務費	195	131	46	39	60
	4. 委託料		19	26	24	28
	5. 使用料及び賃借料		233	243	287	288
	合計	1,428	1,169	1,006	1,362	1,505
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					1,505
	一般財源	1,428	1,169	1,006	1,362	0
	一般財源の比率	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**0.0%**

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	42	人	×	1	日	=	延べ	42	人

③ 各費目の詳細(R5決算)	
1.報償費	記念品、実行委員謝礼等
2.需用費	二十歳のつどい案内状印刷代等
3.役務費	二十歳のつどい案内状郵送料等
4.委託料	二十歳のつどい手話通訳委託料
5.使用料及び賃借料	東総文化会館使用料

④ 特定財源の詳細(R5決算)	
国・県支出金	
地方債	
その他	ふるさと応援基金繰入金

⑤ R4→R5　増減理由

・記念品予算の増加。
・消耗品の単価の増加。
・式典の内容変更により東総文化会館使用料の増加。

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	**順調**	参加者が実行委員となり、自らが主体となって式典を開催することにより、参加者の参加意欲向上につながっている。

② 成果指標の推移（R4→R5）		判定	分析(変動の要因や対策について)
	指標ア	**向上**	R5年度は、式典参加者が増加しているため向上とした。
	指標イ		

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	判定		方針	判定・方針の詳細
	継続実施			次年度以降も実行委員会で参加者が主体となり魅力のある式典の企画を行う。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39600①	文化財保護事務費（文化財看板の整備）

施策体系			
基本施策	3	観光の振興
施策の展開	8	観光施設の整備
戦略事業名	41	文化財看板の整備

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成17年度			
根拠法令	文化財保護法			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

文化財周知のために、文化財の場所やその近くに看板を設置するもので、旭市を訪ねる方にこの地域の歴史と文化に親しんでもらうことを目的とする。既に設置されているもので老朽化したものを改修するほか、新規の設置も行う。また、看板を設置し、地域の方々にも身近にある文化財を意識してもらうことで、文化財保護や郷土を誇りに思う気持ちをはぐくむ。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

昭和25年制定の文化財保護法に準拠した事業。
市指定文化財について、修復費等の補助・説明看板の設置修繕等を実施。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

既設の老朽化した看板の更新を実施してきた。従来は文化財の内容を記載しただけのものだったが、直接目にすることのできない非公開のものなどを、QRコードを利用し詳細な案内に誘導できる取り組みを始めている。
文字が読めない、支柱が傾いたものがあると、所有者だけでなく住民の方からも改修を望む声がある。また、指定文化財以外についても看板設置を求める要望がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	➡	提供するモノやサービス	➡	成果	➡	施策の展開	➡	基本施策	➡	基本目標
文化財看板の整備	➡	文化財看板の改修、設置	➡	地域住民の文化財保護の意識が高まり、郷土を誇りに思う	➡	観光施設の整備	➡	観光の振興	➡	魅力ある雇用を創出し、安心して働けるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

・ 板面交換
　天満天神社・稲荷大神社の本殿及び棟札
　少名毘古大神の碑
・看板建替
　不動明王種子板碑
・県指定文化財のホームページ更新とQRコード看板貼り付け

② 活動指標

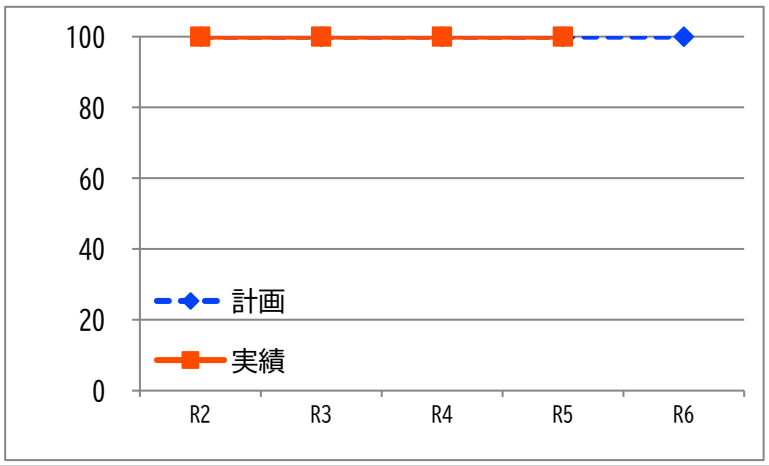
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	看板設置件数	件	計画	0	2	3	3	2
			実績	2	3	3	3	
イ	文化財説明件数	件	計画	2	2	3	3	3
			実績	2	2	2	3	

③ 成果指標

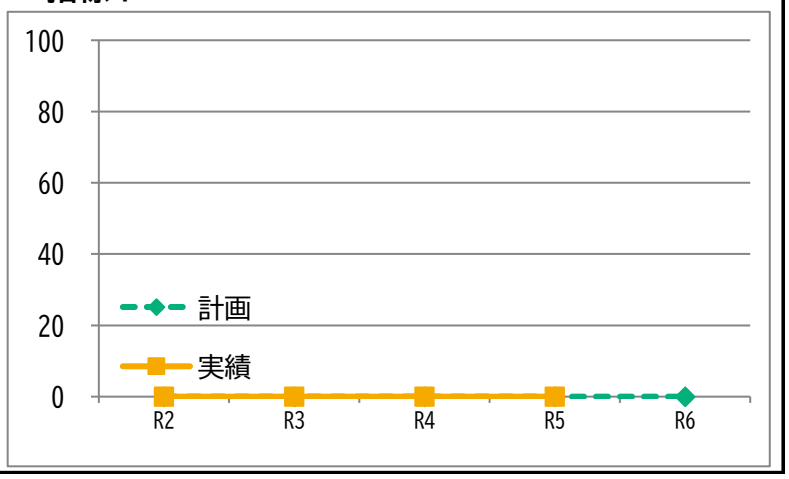
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	看板設置率（設置済/必要箇所総数81か所）	増やす	%	計画	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
				実績	100.0	100.0	100.0	100.0	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　看板設置率（設置済/必要箇所総数81か所）



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 看板設置工事費					
	2. 看板修繕費	131	139	110	119	126
	合計	131	139	110	119	126
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	131	139	110	119	126
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時 [ ] 人

最大 [ ] 人 × [ ] 日 ＝ 延べ [ ] 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.看板設置工事費	
2.看板修繕費	文化財説明看板修理

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

2.　微減のみ

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調	継続して実施し、必要箇所総数を満たしている。破損・劣化したものを対象に整備を行っていく必要がある。QRコードを利用した情報取得ができるよう、ホームページの充実とあわせて看板の更新を行う。

② 成果指標の推移（R4→R5）		判定	分析(変動の要因や対策について)
	指標ア	好調維持	・毎年2，3件ずつ建て替えてきたが、劣化の件数も2，3件で同様の傾向にある。 ・経年劣化や紫外線に強い仕様のものを選定する必要がある。
	指標イ		

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	判定	方針	判定・方針の詳細
	継続実施		劣化のすすんで看板を優先的に修繕するとともに、QRコードを活用した文化財資源の情報発信をすすめ、文化財の内容、価値やその魅力を広く周知する。将来的には、文化財のデジタルアーカイブ事業と合わせて整備をすすめていく。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39600②	文化財保護事務費（文化財看板の整備を除く）（文化財保存・継承団体助成）

施策体系			
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	28	文化財の保護
戦略事業名	132	文化財保存事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成17年度			
根拠法令	文化財保護法、指定文化財修理復旧事業補助要綱ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

・開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査、整理及び報告書作成
・市所管の文化財の維持管理（くん蒸等）
・指定文化財の修理、復旧、維持管理の助成（事業費が10万円以上について事業費の2分の1以内を助成〔上限30万円〕）。後継者育成のための助成（後継者に2～4万円を助成）。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

昭和25年制定の文化財保護法に準拠した事業。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

埋蔵文化財:事業者からの要望増により、庁内協議により確認調査は公費で実施している。整理作業場所の確保が困難。
指定文化財:保存措置が必要なものが目立つが、所有者・管理者の負担が大きい。継承団体の維持が少子高齢化により困難となっている。
指定文化財の所有者、開発事業者からは補助事業、埋蔵文化財調査とも公費を求める要望が多い。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
文化財保存・継承団体助成	・発掘調査 ・文化財の維持管理 ・指定文化財の修理、維持管理、育成のための助成事業	適正な保存及び活用により、指定文化財が公開及び伝承される	文化財の保護	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

保存修復事業3件
・ 国指定記録選択:房総のお浜降り習俗（松澤熊野神社）
・ 市指定文化財：南堀之内のはやし、諸徳寺のはやし

継承団体助成
・ 県指定文化財　後草水神社永代大御神楽道具修理と新調
・ 維持管理9件（市指定文化財の保存継承、維持管理費）

② 活動指標

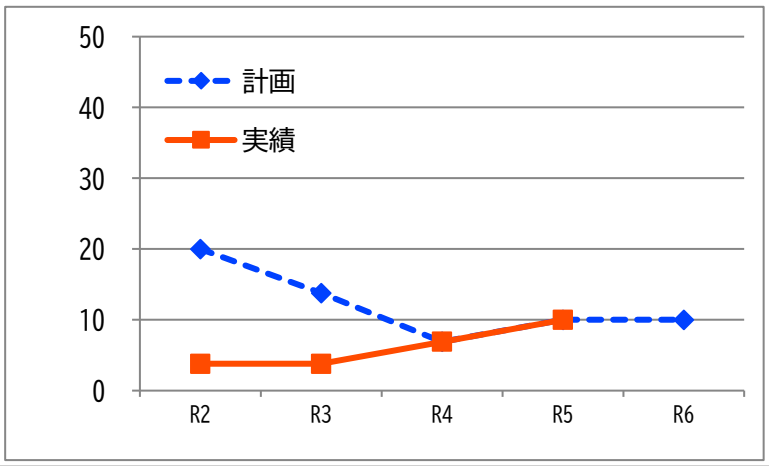
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	埋蔵文化財発掘の届出及び通知件数	件	計画	50	67	58	60	56
			実績	67	58	49	56	
イ	発掘調査件数	件	計画	0	0	2	2	2
			実績	0	0	2	3	

③ 成果指標

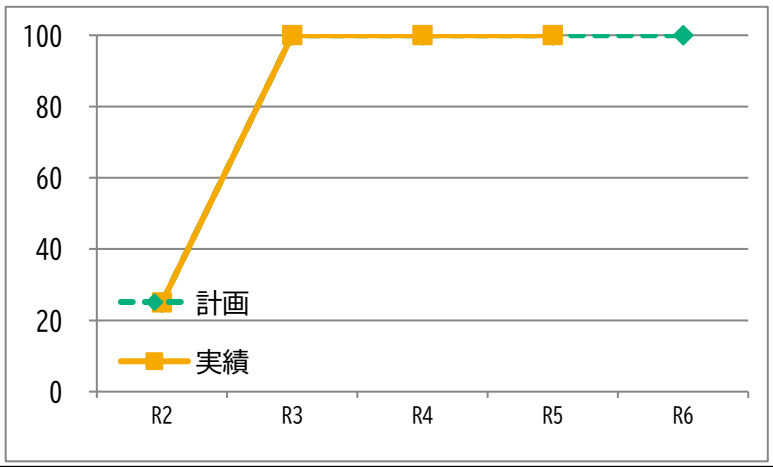
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	発表の場等で積極的に公開された市内文化財の割合（公開件数／130件）	増やす	%	計画	20.0	13.8	6.9	10.0	10.0
				実績	3.8	3.8	6.9	10.0	
イ	埋蔵文化財保存施設のくん蒸割合（くん蒸施設箇所／保存施設箇所）	増やす	%	計画	25.0	100.0	100.0	100.0	100.0
				実績	25.0	100.0	100.0	100.0	

④成果指標の動向

指標ア　発表の場等で積極的に公開された市内文化財の割合（公開件数／130件）



指標イ　埋蔵文化財保存施設のくん蒸割合（くん蒸施設箇所／保存施設箇所）



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 需用費及び役務費	132	41	119	278	507
	2. 委託料	2,274	292	292	292	2,161
	3. 借上料	198			231	135
	4. 負担金及び補助金	4,151	611	547	1,847	1,251
	5. その他(報酬･賃金等)	6,724	4,721	168	205	120
	合計	13,479	5,665	1,126	2,853	4,174
財源内訳	国･県支出金	74	85	74	62	71
	地方債					
	その他					
	一般財源	13,405	5,580	1,052	2,791	4,103
	一般財源の比率	99.5%	98.5%	93.4%	97.8%	98.3%

② 従事職員数

常時 [ ] 人

最大 [ ] 人 × [ ] 日 ＝ 延べ [ ] 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.需用費及び役務費	消耗品
2.委託料	害虫駆除
3.借上料	重機借上、施設借上
4.負担金及び補助金	文化財保存事業補助金等
5.その他(報酬･賃金等)	審議会委員報酬、会計年度任用職員報酬

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国･県支出金	埋蔵文化財緊急調査費　埋蔵文化財助成事業費補助金、教育委員会権限委譲事務費交付金
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

３．発掘調査現場の状況により重機借上料が発生したため

４．松澤熊野神社御神幸祭斎行にともなう補助を実施したため

(4)事務事業に関する評価

	判定		分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調		令和5年度は県指定無形文化財への補助事業を国の補助事業で実施できたほか、全体として補助事業を適切に行うことができた。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	判定：好調維持	分析(変動の要因や対策について)：コロナ禍の影響により取りやめとなっていた地域の伝統的な行事や祭礼がやや戻ってきている。
	指標イ	判定：好調維持	分析(変動の要因や対策について)：収蔵施設の管理は例年通り適切に実施することができた。
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR6以降の方針）	判定：継続実施	方針：	判定･方針の詳細：市の文化財保護行政の根幹となる業務であり、引き続き事業を実施していく。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39720①	家庭教育活動費（家庭教育学級）（家庭教育相談体制）

施策体系			
基本施策	7	子育て支援の充実
施策の展開	16	結婚・子育て環境の整備
戦略事業名	82	家庭教育の充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	特になし			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

【家庭教育学級】市内小・中学校の1年生の保護者自身が、親の役割、子どもの心の理解など家庭での教育の考えを深めていく学習の場として、また保護者同士が互いに支えあう関係づくりの場として、市内小・中学校の保護者を対象に家庭教育指導員や社会教育指導員と連携しながら家庭教育学級の充実を図る。市内小・中学校20校に対して、学校規模に応じ 運営補助金を交付する。【家庭教育相談体制】社会教育指導員が家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者等に対して電話などによる個別的な相談体制の充実に努める。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

家庭教育学級は、家庭が本来果たすべき役割を見つめなおす機会となるよう、保護者自身が親の役割、子どもの心の理解など家庭での教育について、講師の話や話し合いを通して考えあい深めていく学習の場、保護者同士が交流を通して互いに支えあう関係づくりの場として開設した。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

近年、核家族化により、同居の祖父母から子育てのアドバイスをもらったり、地域で子育てを支えたりすることも少なくなっている。そんな中で、子どもの教育を母親が一人で抱え、母親自身が不安を抱えながら子育てをしていることが多い。
参加者から「家庭教育学級を通じて保護者同士のつながりを強め、子育ての不安を減少させることで、子どもに対して安定した気持ちで接することができ、子どもの気持ちの安定にもつながる」などの意見がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
【家庭教育学級】 市内小中学校において家庭教育学級を実施する。 【家庭教育相談体制】 家庭教育相談窓口の開設	【家庭教育学級】 各学校へ家庭教育学級運営補助金を交付 年間2回の合同学習会を実施 【家庭教育相談体制】 家庭教育指導員による相談窓口での対応	【家庭教育学級】 子どもとのかかわりを学んだり、安心感を得たりすることで、保護者の気持ちが安定し、子どもの気持ちの安定につながる。 【家庭教育相談体制】 家庭教育に関する悩みや不安が解消される	結婚・子育て環境の整備	子育て支援の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

【家庭教育学級】
小中学校1年生の保護者を対象に、親の役割、子どもの心の理解について考えを深めていく学習の場としての学級を各学校で2回～3回開催した。また20校の合同学習会として子育てに関する講演会を2回開催した。

【家庭教育相談体制】
家庭教育指導員が家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者等に対して電話などによる個別相談に対応できる体制を整えた。家庭教育相談の窓口について、広報等により周知を図った。
（相談件数0件）

② 活動指標

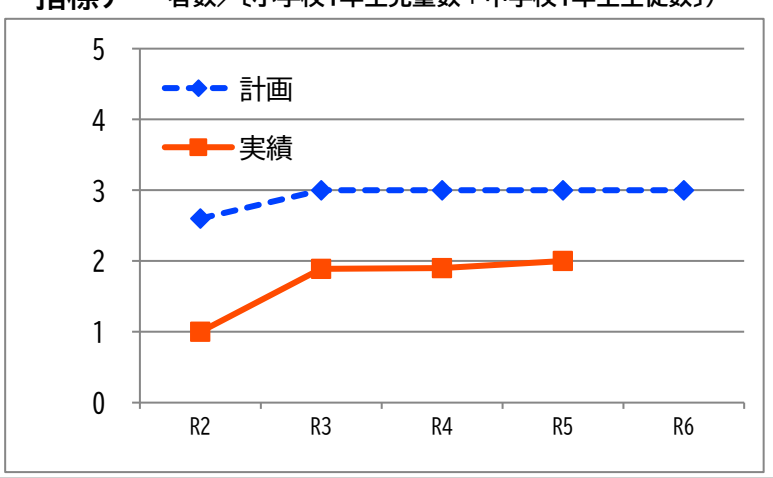
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	合同学習会開催数	講演	計画	2	2	2	2	2
			実績	1	2	2	2	
イ	学校の学習会数	数	計画	66	67	60	60	60
			実績	35	55	60	57	

③ 成果指標

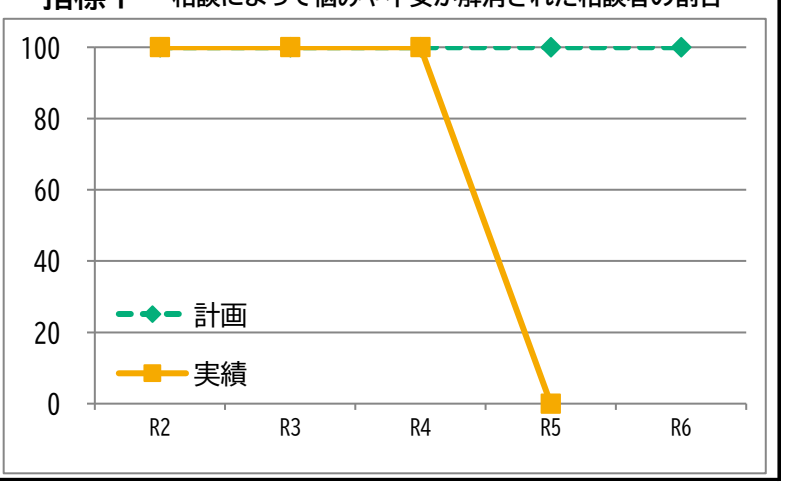
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	児童・生徒1人当たり家庭教育学級参加回数（延べ参加者数／〔小学校1年生児童数＋中学校1年生生徒数〕）	増やす	回	計画	3	3	3	3	3
				実績	1	2	2	2	
イ	相談によって悩みや不安が解消された相談者の割合		%	計画	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
				実績	100.0	100.0	100.0	0.0	

④成果指標の動向

指標ア　児童・生徒1人当たり家庭教育学級参加回数（延べ参加者数／〔小学校1年生児童数＋中学校1年生生徒数〕）



指標イ　相談によって悩みや不安が解消された相談者の割合



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 報酬等			12	28	53
	2. 報償金	150	100	150	200	200
	3. 消耗品費					
	4. 食料費等	86	90	54	115	145
	5. 家庭教育学級運営補助金	1,108	1,437	1,543	1,546	1,570
	合計	1,344	1,627	1,759	1,889	1,968
財源内訳	国･県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	1,344	1,627	1,759	1,889	1,968
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	11	人	×	2	日	=	延べ	22 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.報酬等	講座時保育補助員報酬、旅費
2.報償金	合同開級式・合同講演会講師謝礼
3.消耗品費	講座用消耗品
4.食料費等	講師お茶代、建物等借上料
5.家庭教育学級運営補助金	家庭教育学級運営補助金（小・中学校20校）

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

・講師謝金の増加。
・講座時保育補助員等の報酬の増加。

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		順調	･学習会の内容を工夫することにより、参加者の学びや交流につながる内容となっている。 ･R5年度は、合同学習会に招いた講師の評判がよく、当日実施したアンケートからも満足度が非常に高かった。 ･内容で相談窓口が分かれているため、家庭教育相談の相談件数は0件であった。 ･今後も広報等により相談窓口について周知を図っていく。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	向上	･合同学習会に招いた講師が好評であったため、学習会参加者が増加している。 ･学習内容も、特に小1保護者が対象の場合、親子で実施する学習内容が多かったが、保護者の学びや交流につながる学習内容も増加している。
	指標イ	好調維持	･R5年度は、家庭教育相談は受けていないが、学習会等により対象者の家庭での教育に関する悩みの解消につながった。

③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR6以降の方針）	判定	方針	判定･方針の詳細
	継続実施		･家庭教育学級の学習会を通して、家庭教育の果たすべき役割を学習するとともに、子どもを持つ親同士の交流の場とする。 ･家庭教育を学びたい対象者が、参加しやすい環境を整える。 ･家庭教育相談の相談件数は0件であったが、相談内容により対応する窓口が多数あるため、他の相談窓口と連携し相談内容を共有し、問題解決につなげていく。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39740①	青少年健全育成活動費（青少年育成市民会議）（青少年問題協議会）

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	135	青少年育成市民会議の推進

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	旭市青少年問題協議会条例等			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

①青少年育成市民会議：地域と行政が協働して意見発表会などを通じて青少年の健全育成を行う。市は育成市民会議に補助金を交付する。
②青少年問題協議会：青少年の指導等に関する総合政策について調査審議する。市は事務局事務を行う。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

【青少年健全育成市民会議】
合併前の1市3町で結成されていた市・町民会議が、平成17年7月の合併により新旭市が誕生したことを受けて、平成17年9月に、新たに「旭市青少年育成市民会議」が結成された。
【青少年問題協議会】
市内における青少年に関する施策の連絡調整、青少年の健全な育成を図るため、地方青少年問題協議会法第1条の規定により旭市青少年問題協議会が設置された。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜徘徊などに加え、パソコンやスマートフォンなどによるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化し、低年齢化の傾向にある。
学校・家庭・地域社会・関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
・青少年健全育成のための事業を実施。 ・青少年健全育成に必要な施策等について研修、協議する。	・県下一斉パトロールの実施 ・青少年意見発表大会の開催 ・青少年問題協議会の開催	青少年の現状や抱える課題、目標等を共有することにより、青少年健全育成活動の充実を図ることができる。	青少年の健全育成の推進	青少年の健全育成の推進	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

【市民会議】
産業まつりでの広報活動、県下一斉合同パトロール、青少年意見発表大会

【問題協議会】
青少年問題協議会会議の開催

② 活動指標

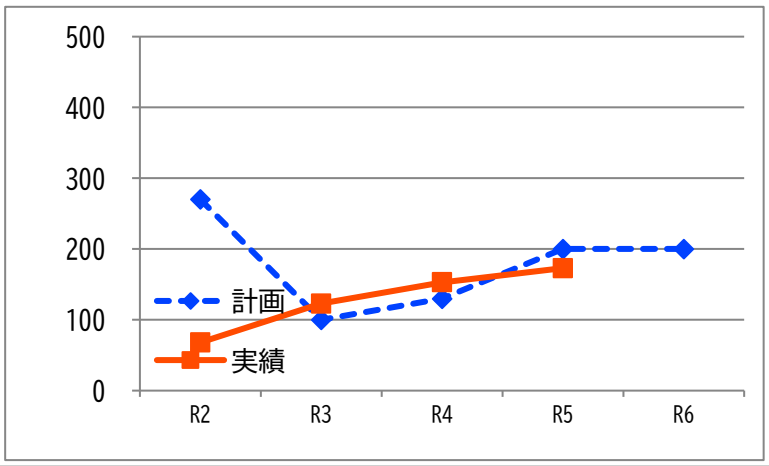
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	≪市民会議≫意見発表大会の発表人数	人	計画	15	15	14	14	14
			実績	13	14	13	13	
イ	≪問題協議会≫会議の回数	回	計画	1	1	1	1	1
			実績	0	0	1	1	

③ 成果指標

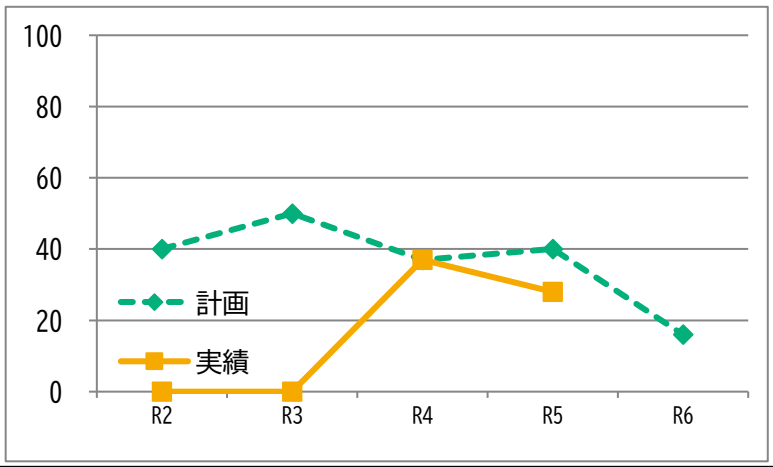
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	≪市民会議≫青少年意見発表大会の来場人数	増やす	人	計画	270	100	130	200	200
				実績	68	123	153	173	
イ	≪問題協議会≫会議及び講演会等の参加人数	増やす	人	計画	40	50	37	40	16
				実績	0	0	37	28	

④成果指標の動向

指標ア　≪市民会議≫青少年意見発表大会の来場人数



指標イ　≪問題協議会≫会議及び講演会等の参加人数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 負担金及び交付金	94	147	155	151	180
	2. 需用費	6			3	54
	3. 委託料	23				0
	4. 使用料及び賃借料	63	74	65	73	75
	5. 報酬			48	36	48
	合計	186	221	268	263	357
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	186	221	268	263	357
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	4	人	×	2	日	=	延べ	8 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.負担金及び交付金	補助金（育成市民会議）
2.需用費	啓発用品購入代、記念写真印刷代
3.使用料及び賃借料	東総文化会館使用料
4.報酬	青少年問題協議会委員報酬

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

微減

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調	・意見発表大会は、来場者はコロナ禍明けということもあり来場者数が増加した。 ・青少年問題協議会の会議や講演会の内容について検討し参加者の増加につなげていく。

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	向上	青少年意見発表大会は、産業まつりで意見発表大会の広報活動を実施したことにより入場者が増加した。
	指標イ	伸び悩み	・会議を開催することにより、青少年の健全育成に関係する団体等の情報共有や抱える問題を考える機会となっている。 ・会議の参加対象者を限定しているため、講演会と会議の同時開催の場合、参加人数が伸びない。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		団体の役割や活動内容を踏まえて、青少年の健全育成に関連する業務や団体の集約化を図る。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39740②	青少年健全育成活動費（青少年相談員）（通学合宿）

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	137	青少年相談員連絡協議会活動の推進

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	旭市青少年問題協議会条例等			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

①青少年相談員連絡協議会：青少年相談員（千葉県知事委嘱）による青少年健全育成活動。市は連絡協議会への補助金交付を行う。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

【青少年相談員連絡協議会】
青少年相談員が青少年問題対策の総合的な企画、調整及び推進を行い、青少年の健全な育成を図ることを目的として設置。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜徘徊などに加え、パソコンやスマートフォンなどによるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化し、低年齢化の傾向にある。
学校・家庭・地域社会・関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
旭市青少年相談員主催事業を開催する	青少年が自立性、協調性、社会性を養える事業を提供する	青少年と地域の顔である青少年相談員が事業を通じて交流することにより、青少年の人間形成がなされる	青少年の健全育成の推進	青少年の健全育成の推進	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

【主体事業】
・じゃがいもほり体験：児童参加者30名
・夏の宿泊体験：児童参加者36名
・秋の宿泊体験：児童参加者37名
・海上地域少年少女ドッジボール大会
　　：児童参加者51名
・子どもパークゴルフ大会：児童参加者26名
　※旭市子ども会育成者連絡協議会と共催

【協力事業】
・あさひスポーツフェスティバル
・旭市民駅伝大会
・旭市飯岡しおさいマラソン大会

② 活動指標

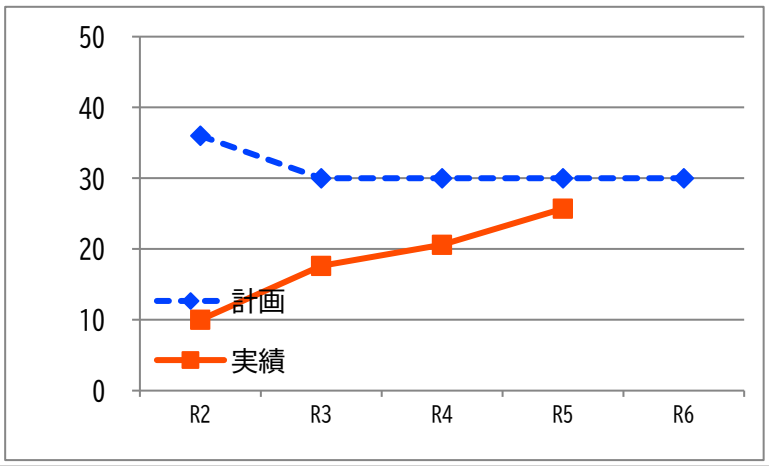
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	≪相談員連絡協議会≫行事の回数	回	計画	7	4	7	6	5
			実績	1	2	7	5	
イ			計画					
			実績					

③ 成果指標

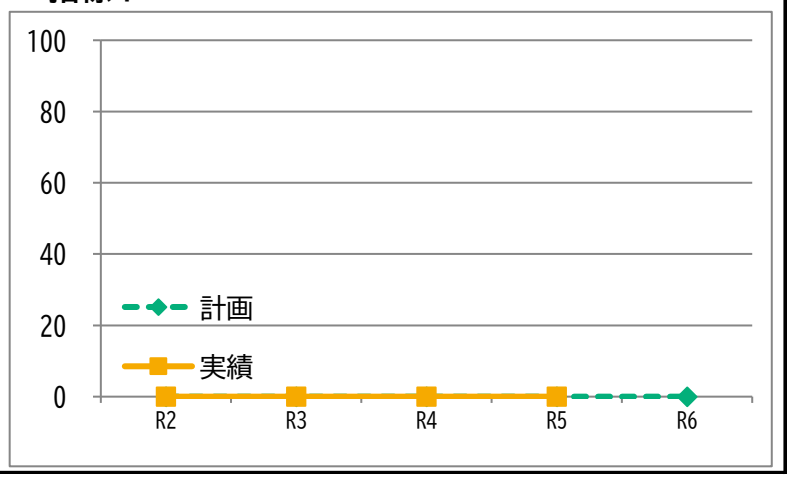
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	≪相談員連絡協議会≫相談員の各事業への参加率	増やす	%	計画	36.0	30.0	30.0	30.0	30.0
				実績	10.0	17.6	20.6	25.7	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　≪相談員連絡協議会≫ 相談員の各事業への参加率



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 負担金及び交付金	440	549	2,777	710	710
	合計	440	549	2,777	710	710
財源内訳	国・県支出金	355	355	360	355	355
	地方債					
	その他					
	一般財源	85	194	2,417	355	355
	一般財源の比率	19.3%	35.3%	87.0%	50.0%	50.0%

② 従事職員数

常時	1	人						
最大	5	人	×	13	日	=	延べ	65 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.負担金及び交付金	補助金（青少年相談員連協）、海匝相談員負担金

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	青少年相談員活動費補助金
地方債	
その他	

⑤ R4→R5 増減理由

青少年相談員の任期が２年目のためユニフォーム購入費用分が減額となった。

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調	・新規事業として、小学校低学年を対象とした「じゃがいもほり体験」や、通学合宿の代替事業として令和4年度より実施している「海上キャンプ場宿泊体験」を開催し、合計で児童103人、相談員74人の交流による青少年の健全育成が図られた。

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	好調維持	・青少年・青少年相談員の双方が一緒になって楽しめ、達成感を得られる事業内容となるよう努める。
	指標イ		

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		・青少年相談員の負担を鑑みて、現状の事業量を維持しつつ、事業内容を精査し、相談員の参加率向上を図る。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39740③	青少年健全育成活動費（ジュニアリーダー）（子ども会）

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	140	子ども会活動の促進

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	旭市青少年問題協議会条例等			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

子ども会：地域の大人が指導者となり、主体となる子ども会事業等について支援し、様々な体験活動を実施。活動に際しては、ジュニアリーダースクラブ（中学生から高校生までのグループ）がボランティアで支援を行なう。市は子ども会育成連絡協議会への補助金交付と活動の支援を行う。親子地曳網体験、交歓会、書初め展のほか、平成28年度からは子どもパークゴルフ大会を実施している。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

旭市子ども会育成連絡協議会は、市内子ども会の自主性を尊重し、各育成会の連絡協調をはかり、各子ども会の健全な発展に寄与することを目的としている。また、協議会は、指導者の発掘、養成、交歓会事業、バスの借り上げ助成事業等を行っている。市補助金を交付することにより、この活動を助成している。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜はいかいなどに加え、パソコンや携帯電話によるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化、低年齢化の傾向にある。
学校、家庭、地域社会、関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
事業計画に基づき、旭子連主催4事業を開催する。また、5,6年生を対象とした初級講座をジュニアリーダー（中高生）が企画運営する。	・旭子連主催事業 ①親子地曳網体験、②デイキャンプ、③子どもパークゴルフ大会、④書き初め展 ・初級講座事業 ①交流会、②小見川宿泊講習会、③交歓会	小学校区から選出される理事と各子ども会育成者間の連絡調整が図られる。また、子ども会会員は、主催事業を通して、初級講座では、ジュニアリーダーとの異年齢間における交流活動等を通して、社会性や豊かな人間性を養うことができる。	青少年の健全育成の推進	青少年の健全育成の推進	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

【旭子連主催事業】
①デイキャンプ：参加者29名
②かるたレク交歓会：悪天候のため中止。
③もちつき体験：参加者36名
④子どもパークゴルフ大会：参加者26名

【初級講座事業】
①小見川宿泊事前講習会
：小学生参加者39名
ジュニアリーダー9名
②小見川宿泊講習会（1泊2日）
※累計　：小学生参加者75名
ジュニアリーダー17名
③かるたレク交歓会：小学生参加者26名
ジュニアリーダー7名

② 活動指標

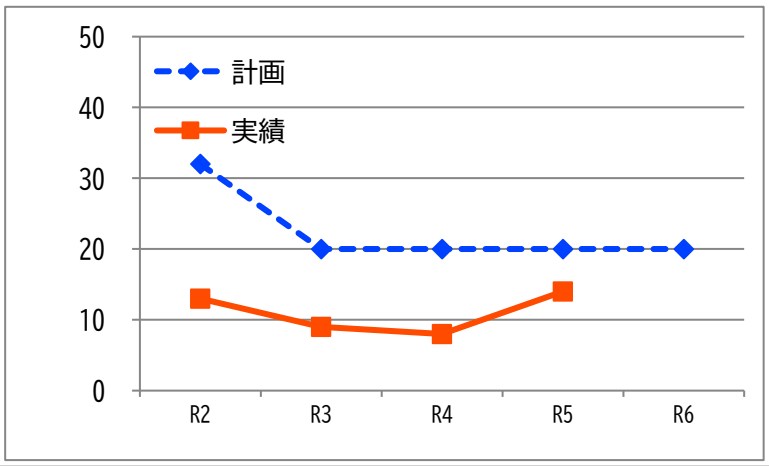
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	≪ジュニア・リーダー≫ ジュニア・リーダー初級講座受講生	人	計画	51	30	30	40	40
			実績	13	12	15	43	
イ	≪子ども会≫ 単位子ども会の会員数	人	計画	2,000	1,760	1,760	1,200	1,000
			実績	1,165	1,187	1,048	876	

③ 成果指標

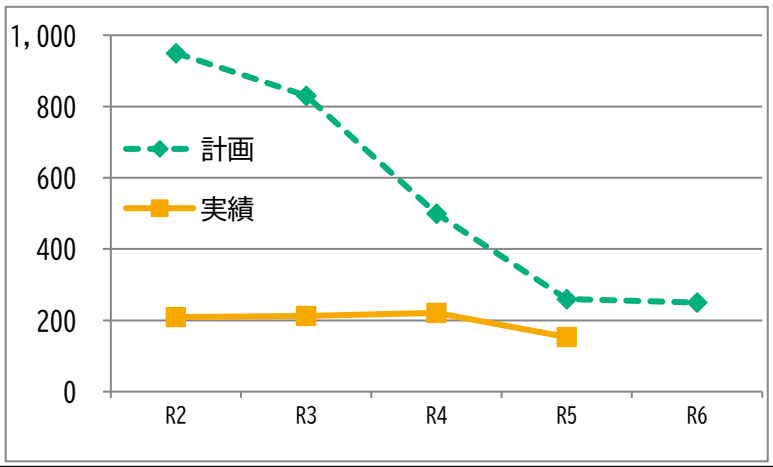
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	≪ジュニア・リーダー≫ ジュニアリーダースクラブ会員	増やす	人	計画	32	20	20	20	20
				実績	13	9	8	14	
イ	≪子ども会≫ 市子連主催の主な事業への参加人数	増やす	人	計画	950	830	500	260	250
				実績	209	212	221	153	

④成果指標の動向

指標ア　≪ジュニア・リーダー≫ ジュニアリーダースクラブ会員



指標イ　≪子ども会≫ 市子連主催の主な事業への参加人数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 負担金及び交付金	493	646	1,014	1,409	2,407
	合計	493	646	1,014	1,409	2,407
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	493	646	1,014	1,409	2,407
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	1	人						
最大	6	人	×	30	日	=	延べ	180 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.負担金及び交付金	補助金

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

子ども会バス借上料助成団体の増加

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	・単位子ども会の会員数が減少傾向であるため主催事業への参加人数は減少している。 ・ジュニア・リーダー初級講座受講生は増加しており、ジュニア・リーダースクラブの会員数の増加につながっている。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	判定 向上	分析(変動の要因や対策について) コロナ禍があけたことにより、初級講座の申し込みが増加した。
	指標イ	判定 低下	分析(変動の要因や対策について) 単位子ども会の加入団体数や会員数が減少しているため、市子連主催事業への参加人数が減少している。また、事業内容の見直しに伴い、募集定員にも変更が生じた。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		・ジュニアリーダースクラブ活動は、異年齢間の活動が中心であり、中高生及び小学生の「他の人と関わりたい」と言う社会性の基礎が身につく事業でるため、今後も継続実施とした。 ・旭市子ども会育成連絡協議会の主催事業を行うことにより、単位子ども会の枠を超え、育成者と子ども会会員が交流することができ、自然体験や交流会を通して、社会性や豊かな人間性を育むことができるため、今後も継続とした。

事務事業評価シート　令和　5　年度事後評価・決算

令和　6　年 11　月　1　日

事業コード・事務事業名	39740④	青少年健全育成活動費（茅野市児童交流事業）

施策体系			
基本施策	16	交流の促進
施策の展開	33	自治体間交流の促進
戦略事業名	155	旭市・茅野市児童交流事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	平成24年度			
根拠法令	特になし			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

旭市の児童と姉妹都市である長野県茅野市の児童が交流を通して、相互の風土及び歴史文化を理解することにより、更なる親睦と友情を深め、姉妹都市の一層の親善を図る。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

平成23年の東日本大震災で旭市が甚大な被害を受けたとき、茅野市から多くの支援物資や義援金、励ましの言葉をいただいたお礼として、本市のPTAを中心とした「山と海　きずなをつなぐプロジェクト」実行委員会が、被災した旭市の復興を願う七夕市民まつりに合わせて、茅野市の子供たちを旭市に招待ことから始まった。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

震災から13年が経過し、参加する児童も震災後に生まれた世代となり、当初の目的である災害の恐ろしさを知ることや備えることの大切さなどの考える等の意識が薄れてきた。交流事業としては、児童が茅野市を訪問することにより、茅野市について知り良い交流の機会となった。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
旭市・茅野市児童交流事業の実施	旭市内小学5年生児童の茅野市訪問	両市の児童が親睦と友情を深め、姉妹都市の一層の親善を図る。	自治体間交流の促進	交流の促進	ひとの定着・還流・移住の流れをつくり、人々が集うまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

事前学習会　全3回
茅野市訪問　8/2(水)～4(金)
参加者　20名
茅野市訪問児童　19名

② 活動指標

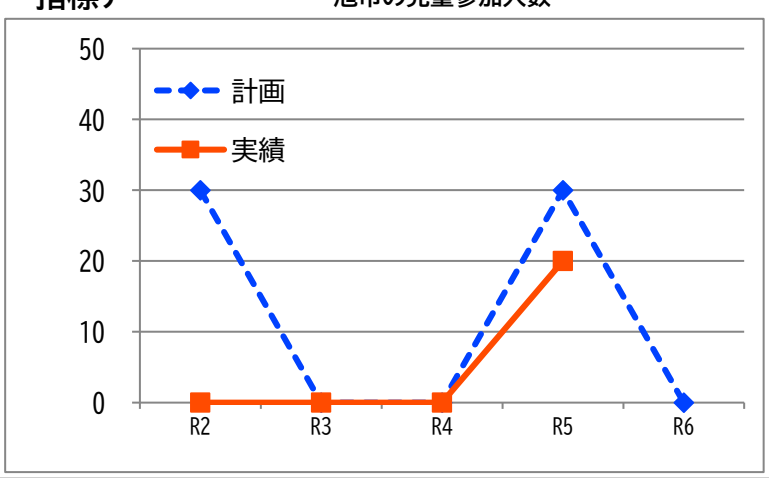
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	旭市の参加小学校数	校	計画	3	0	0	10	0
			実績	0	0	0	6	
イ	茅野市の参加小学校数	校	計画	9	0	0	10	0
			実績	0	0	0	5	

③ 成果指標

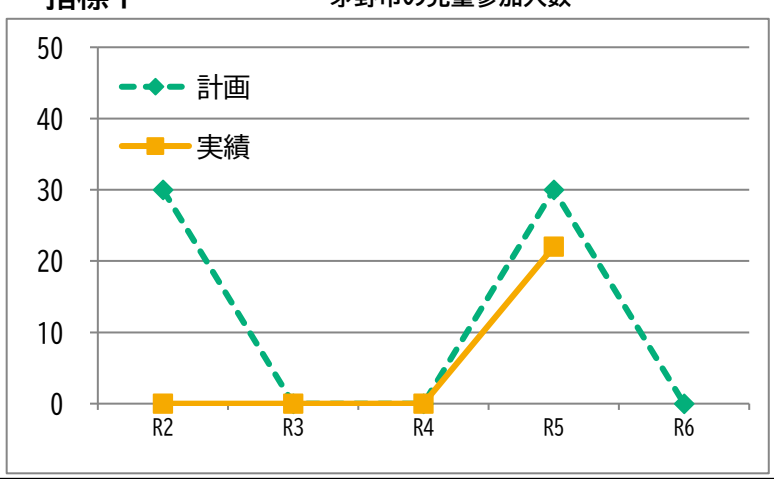
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	旭市の児童参加人数		人	計画	30	0	0	30	0
				実績	0	0	0	20	
イ	茅野市の児童参加人数		人	計画	30	0	0	30	0
				実績	0	0	0	22	

④成果指標の動向

指標ア　旭市の児童参加人数



指標イ　茅野市の児童参加人数



(3)コストの状況

（単位：千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 負担金補助及び交付金				477	0
	合計	0	0	0	477	0
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	0	0	0	477	0
	一般財源の比率				100.0%	

② 従事職員数

常時	1	人						
最大	4	人	×	3	日	=	延べ	12 人

③ 各費目の詳細（R5決算）

1.負担金補助及び交付金	旭市・茅野市児童交流事業補助金

④ 特定財源の詳細（R5決算）

国・県支出金	
地方債	
その他	地域振興基金繰入金

⑤ R4→R5　増減理由

コロナの影響により中止となっていた交流事業を実施したため。

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析（好不調の要因や対策について）
① 事務事業の進捗	完了	平成23年の東日本大震災で旭市が甚大な被害を受けやたとき、茅野市から多くの支援物資や義援金、励ましの言葉をいただいたお礼として、本市のPTAを中心とした「山と海　きずなをつなぐプロジェクト」実行委員会が、茅野市の子どもたちを旭市に招待したことにより始まった交流事業は、事業の開始から13年が経過し、事業の目的を達成したと考えられるため、令和5年度をもって終了することになった。

② 成果指標の推移（R4→R5）		判定	分析（変動の要因や対策について）
	指標ア	向上	コロナ禍があけて、事業を実施した。
	指標イ	向上	コロナ禍があけて、事業を実施した。

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	判定		方針	判定・方針の詳細
	見直し	➡	その他	茅野市児童交流事業は、一定の成果が得られたため、現在のような交流事業は終了する。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39900①	文化振興事業（文化施設の利用助成事業）

施策体系			
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	27	芸術文化の振興
戦略事業名	128	文化施設の利用助成事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	2
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成17年度			
根拠法令	旭市文化振興基金条例、旭市文化振興規則ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☑ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

文化振興事業（文化協会運営補助金及び文化祭開催補助金を除く）とは、市民の幅広いニーズに対応し、自主的な文化芸術活動が活発になるよう、1. 千葉県東総文化会館にて市主催のコンサート・寄席・あさひのまつりなどを開催し、2. 市内で活動する歌謡・舞踊などの団体に対し、東総文化会館を使用する際に文化施設使用料を助成する事業。また、市民が参加できる文化事業を実施する。

1. 市主催事業　（有料）音楽劇「精霊の守り人」、あさひ寄席、さかなクンのお魚教室
　　（無料）NHK公開番組、あさひのまつり、スプリングコンサート
2. 使用料助成　歌謡、舞踊、カラオケ→施設使用料の1／3を助成している。（上限、回数制限〔年度1回限り〕有）

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

合併前の旭市文化振興基金、海上町文化振興基金に属していた現金、有価証券その他の財産により、新市文化振興基金を設置したことにより始まった。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・文化振興基金は毎年ほぼ5,000千円以上の額を取り崩し、H28年度末をもって廃止し一般会計に移行した。
・助成を受けた団体から「助成が年1回になったので、開催回数を年1回に減らした」といった意見があるほど、文化会館を利用する団体にとって、この助成金のメリットは大きい。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
市主催事業を開催する 文化施設利用助成金の交付	市民に対し質の高い舞台芸術の鑑賞機会を提供する 市民参加による文化活動の機会を提供する	市民の芸術文化の普及促進及び文化活動意欲の向上	芸術文化の振興	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

・NHK公開番組（618人）
・音楽劇「精霊の守り人」（603人）　※財団共催
・第18回あさひのまつり（671人）
・第19回あさひ寄席（891人）
・さかなクンのお魚教室（588人）
・第19回スプリングコンサート（705人）
・旭市ふるさと文芸賞（387人/590点）
・旭市子ども書道大会（37人）

② 活動指標

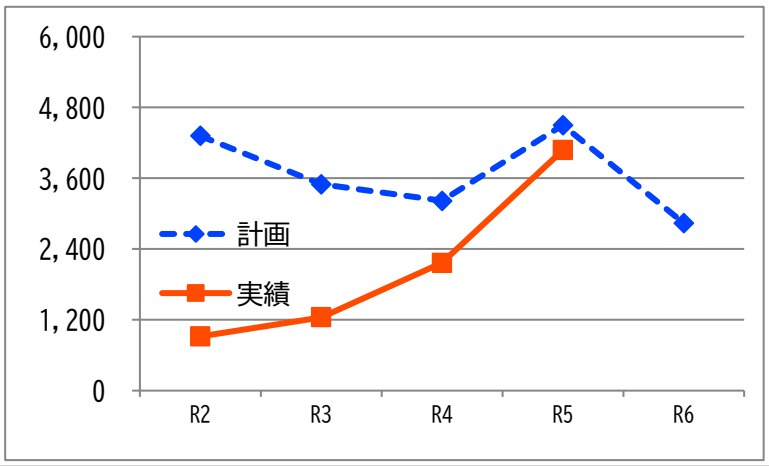
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	市主催事業開催回数（文化祭除く）	回	計画	6	8	4	6	4
			実績	3	3	3	6	
イ	使用料助成件数	件	計画	15	15	10	10	10
			実績	1	4	7	8	

③ 成果指標

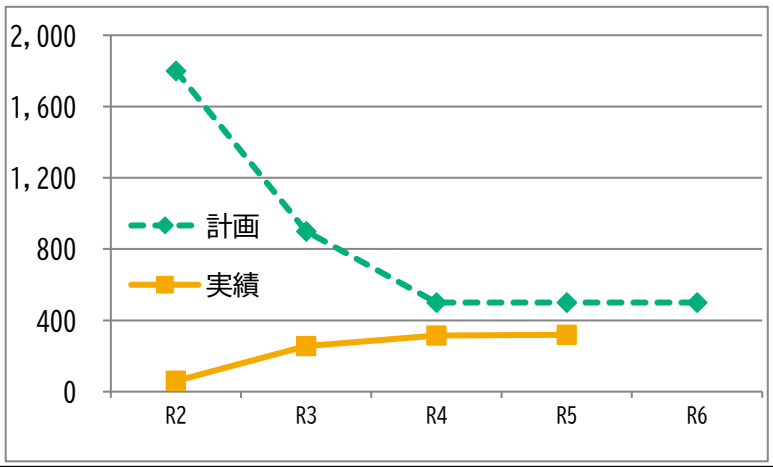
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	市主催事業（文化祭除く）観覧者数	増やす	人	計画	4,320	3,500	3,220	4,500	2,840
				実績	919	1,243	2,166	4,076	
イ	助成によって参加できた団体の発表者数	増やす	人	計画	1,800	900	500	500	500
				実績	60	255	315	319	

④成果指標の動向

指標ア　市主催事業（文化祭除く）観覧者数



指標イ　助成によって参加できた団体の発表者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 公演等委託料	3,795	2,475	2,365	4,950	2,740
	2. 建物等借上料	936	2,305	963	2,034	2,050
	3. 報償金	1,020	1,255	1,543	1,753	1,837
	4. 使用料助成	70	169	326	344	500
	5. 負担金及び補助金	560	560	560	4,025	2,560
	6. その他	822	1,059	1,110	1,142	1,006
	合計	7,203	7,823	6,867	14,248	10,693
財源内訳	国・県支出金					
	地方債	928	1,090	2,849	2,998	2,232
	その他	2,866	1,384	308	5,416	2,772
	一般財源	3,409	5,349	3,710	5,834	5,689
	一般財源の比率	47.3%	68.4%	54.0%	40.9%	53.2%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	24	人	×	1	日	=	延べ	24 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.公演等委託料	有料公演事業委託料等
2.建物等借上料	千葉県東総文化会館施設及び附帯設備利用料
3.報償金	合唱団講師謝金、自主事業特別出演者報酬
4.使用料助成	文化施設利用助成金
5.負担金及び補助金	共催公演負担金、合唱団補助金
6.その他	需用費、役務費

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	県民芸術劇場公演費負担金
地方債	自主文化事業入場料収入
その他	地域振興基金繰入金、地域伝統芸能等保存事業助成金

⑤ R4→R5　増減理由

1.公演等委託料増…委託件数の増。
2.建物等借上料増…利用日数の増。
3. 報償金増…新規事業：子ども書道大会の謝金及び副賞の増。
4. 使用料助成増…利用団体数の増。
5.負担金及び補助の増…新規科目：共催公演負担金の増。
6.その他微増

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	概ね順調	日頃触れる機会の少ない優れた文化芸術を鑑賞できる場の提供や、市民の主体的な活動の支援を行っている。毎年回数を重ねている、あさひのまつり、あさひ寄席、スプリングコンサートを中心に事業を計画し、実施できている。

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	向上	NHK公開番組の採択、あさひのまつり再開に伴う事業開催回数の増。 あさひ寄席、さかなクンのお魚教室のチケットが完売となった。
	指標イ	好調維持	各団体がコロナ禍で中止していた事業を再開している。

	判定		方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施			毎年実施している事業を継続する。 R6年度は採択されなかったが、好評を得ているNHK公開番組と宝くじ助成事業は、引き続き実施申請を行う。 文化振興基金を廃止し7年が経過した中で、集客を見込める自主事業を増やすことは難しい。今後は千葉県文化振興財団が誘致する公演に共催する形で、市だけではできない舞台鑑賞の機会を作っていく。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	39900②	文化振興事業（市民文化活動の支援）

施策体系			
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	27	芸術文化の振興
戦略事業名	127	市民文化活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	2
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成17年度			
根拠法令	旭市文化祭開催補助金交付要綱ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☑ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

【補助金交付事務】旭市文化協会（94団体・1,360名）への運営に対する補助631千円や、文化祭開催費用1,850千円の補助を行う。
【その他文化振興関係事務】（公社）日本七宝作家協会展・濤川惣助賞への木杯提供など、文化振興関係の事務を行う。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

・旭市文化協会は芸能部、美術部、茶華道部、文芸部等、部門別に活動しているほか、文化祭は各地域別に開催していた（令和元年度集約開催）。文化協会の加盟団体数は94団体、会員数は1,360名で、自主的に文化活動を行っており、活動の支援や指導者の育成等、市民の文化活動の活性化を図るために始まった。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・各部門別の活動及び文化祭実施等、文化協会の自主的運営への積極的な姿勢が見られ、事業効果が大きい。
・R4年度から文化協会主催事業について、市が共催から後援になったことに伴い、文化祭開催補助金を増額した。
・文化協会から「補助金がないと運営が難しいため補助金があった方がよい」との意見がある。
・R5年度から、3会場で行っていた文化祭を2会場に集約した。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動		提供するモノやサービス		成果		施策の展開		基本施策		基本目標
事業を円滑に行うための補助金交付及び後援	➡	市民参加による文化活動の機会を提供し、活動を支援する	➡	市民の文化芸術意識の向上と、自主的な文化活動を活性化させる	➡	芸術文化の振興	➡	芸術文化の振興・伝統文化の保存	➡	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

日本七宝作家協会展・濤川惣助賞への木杯提供
文化協会運営補助金の交付
文化祭開催事業補助金の交付

② 活動指標

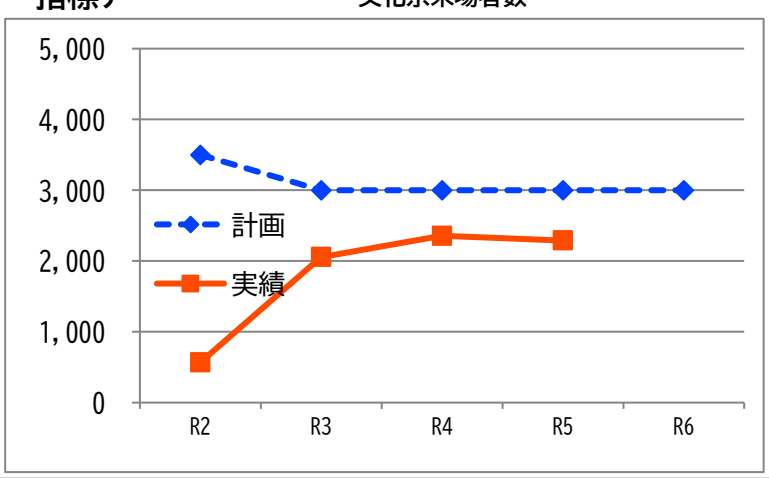
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	文化協会加入者数	人	計画	1,750	1,700	1,600	1,600	1,500
			実績	1,668	1,528	1,382	1,360	
イ	行事開催回数	回	計画	3	3	3	3	2
			実績	1	3	3	2	

③ 成果指標

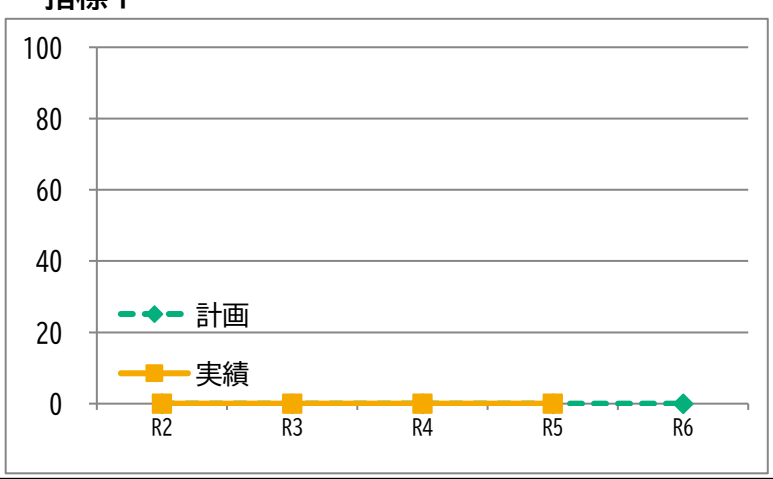
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	文化祭来場者数	増やす	人	計画	3,500	3,000	3,000	3,000	3,000
				実績	568	2,056	2,357	2,290	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　文化祭来場者数



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 負担金及び補助金	975	1,814	2,481	2,481	2,481
	2. 賞賜金		15	15	15	25
	3. その他	198	21	21	48	43
	合計	1,173	1,850	2,517	2,544	2,549
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	1,173	1,850	2,517	2,544	2,549
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	1	人

最大		人	×		日	=	延べ		人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.負担金及び補助金	文化協会運営費補助金、文化祭開催補助金
2.賞賜金	日本七宝作家協会展木杯
3.その他	消耗品費・旅費等

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

微増のみ

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	文化協会は文化祭以外にも自主的な文化活動を行っており、活動の支援や指導者の育成等、市民の文化活動の促進を図るため、継続的な支援は必要である。これにより、文化協会の自主運営への積極的な姿勢が見られている。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	好調維持	計画水準には至らなかったが、来場者数は2,000人を超え維持している。
	指標イ		

	判定		方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施			文化祭来場者はコロナ禍から回復し、各団体の活動も活発に行われている。 今後も文化協会の事業を支援し、広報周知等に協力する。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	40200	市民会館管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	3
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和41年度			
根拠法令	旭市民会館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

【維持管理業務】市民の福利増進及び教育文化の向上、産業発展及び市勢振興のため、様々な学習機会を提供する場として、快適かつ安全で利用しやすい施設となるよう、維持管理及び改修を行い整備する事業。①誰もが利用しやすい施設。②法令に適合した安全な施設。③施設管理費の削減。④ITに対応した施設を目指す。
【貸館業務】一般団体、サークル活動等の貸館業務(開館時間　9時～21時　休館日　月・祝日・年末年始休館)。
・使用料(時間単価)　第1研修室　300円、第2研修室　600円、第3研修室　300円

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

社会教育法3条を根拠とし、昭和41年に旭市民会館を開館。昭和55年に開館した婦人の家を平成25年に第二市民会館とした。老朽化した旭市民会館・青年の家の機能を移転するため、令和3年に第二市民会館を改修し、令和4年に旭市民会館として開館。市主催講座、一般サークルへの貸館を行っている。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

・改修によりトイレが広く使いやすくなり好評。
・法令により2階部分の利用が限られる。
・市検診期間は利用できる部屋が限られ、駐車場も不足する。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
維持管理業務 貸館業務	誰もが利用しやすい快適かつ安全な施設となるよう維持管理を行う	様々な学習機会を得られる場として、市民の福利増進、教育文化の向上を図る	生涯学習関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

・維持管理業務
　施設維持管理業務委託
　浄化槽改修工事
・主催講座事業(43講座・うち新規10講座)
・貸館業務(サークル・団体等:9時～21時)

② 活動指標

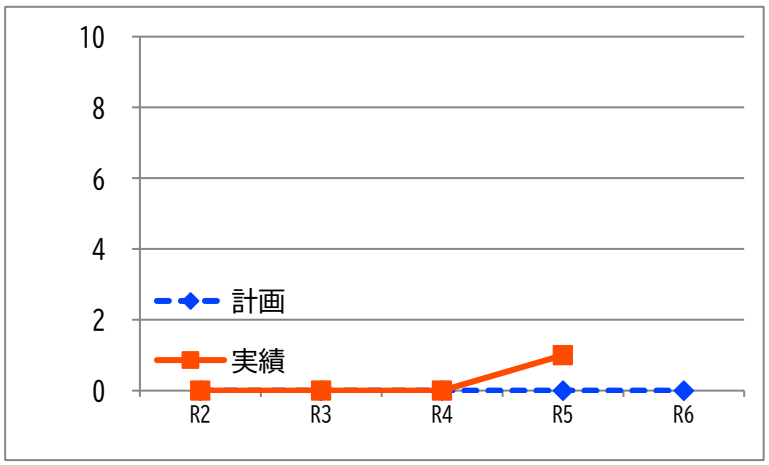
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	管理業務委託数	業務	計画	12	10	9	9	9
			実績	11	10	9	9	
イ	修繕工事数	工事	計画	1	0	1	0	0
			実績	4	0	2	1	

③ 成果指標

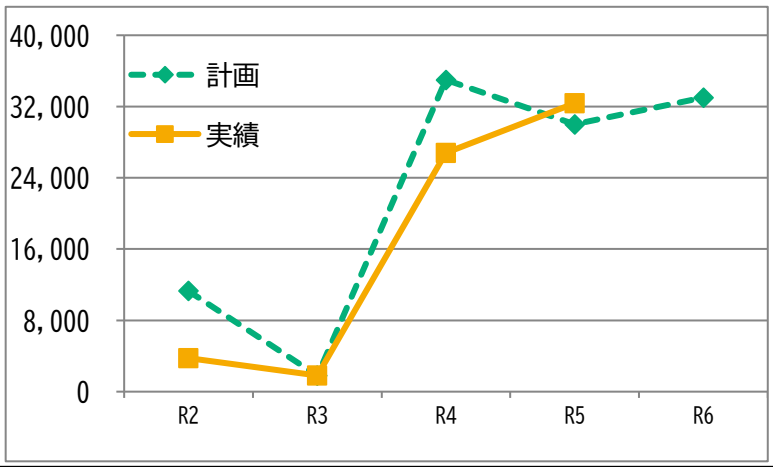
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	施設維持管理に起因する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	0	0	0	1	
イ	延べ利用者数	増やす	人	計画	11,300	1,800	35,000	30,000	33,000
				実績	3,766	1,813	26,786	32,372	

④成果指標の動向

指標ア　施設維持管理に起因する苦情件数



指標イ　延べ利用者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 委託料	4,541	2,224	4,043	4,970	5,445
	2. 光熱水費	1,495	848	2,426	2,275	3,126
	3. 報酬等(～R1賃金)	1,984	2,114	5,951	6,829	7,890
	4. 修繕料	432	41	277	87	166
	5. その他	829	1,312	3,631	2,333	2,637
	合計	9,281	6,539	16,328	16,494	19,264
財源内訳	国･県支出金					
	地方債					
	その他	116	63	398	470	392
	一般財源	9,165	6,476	15,930	16,024	18,872
	一般財源の比率	98.8%	99.0%	97.6%	97.2%	98.0%

② 従事職員数

常時	3	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.委託料	清掃、受付業務、警備、浄化槽維持管理、他業務委託
2.光熱水費	電気代、水道代、ガス代
3.報酬等(～R1賃金)	会計年度任用職員報酬・期末手当
4.修繕料	施設等修繕料、公用車整備料
5.その他	共済費、旅費、消耗品費、燃料費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	施設使用料

⑤ R4→R5 増減理由

1. 委託料　夜間利用増による受付業務委託料の増
2. 光熱水費　微増のみ
3. 報酬等　会計年度任用職員の報酬・手当の増
4. 修繕料　修繕箇所が少なかったため減
5. その他　旧市民会館駐車場賃借終了のため賃借料の減

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	検診時などの利用制限時は、定期利用者に部屋や日時を変更してもらうなどして対応している。 施設管理は費用をかけずに職員で修繕対応している。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	伸び悩み	改修工事後のため施設の不具合もなく、適切に管理されている。
	指標イ	好調維持	施設が周知され、定期利用団体以外の新規利用者も増加した。

	判定	方針	判定･方針の詳細
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		生涯学習や市民コミュニティの場として継続利用する施設。定期的なメンテナンスを継続し低コストで維持管理していきたい。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	40300①	市民会館活動費
施策体系 基本施策	11	生涯学習の充実
施策体系 施策の展開	24	生涯学習機会の充実
施策体系 戦略事業名	121	生涯学習施設活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	3
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和41年度			
根拠法令	旭市民会館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

市民一人ひとりが、自ら学び自ら行動し、より良い生活や自己向上を図るために、様々な学習機会を提供する事業。
①各種講座・教室の開催：通年、前期、後期、単発で市民のニーズに合った様々な講座を開催する。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

社会教育法3条を根拠とし、昭和41年に旭市民会館を開館。昭和55年に開館した婦人の家を平成25年に第二市民会館とした。老朽化した旭市民会館・青年の家の機能を移転するため、令和3年に第二市民会館を改修し、令和4年に旭市民会館として開館。市民の福利増進及び教育文化の向上、産業発展及び市勢振興のため、市主催講座、一般サークルへの貸館を行っている。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

参加者が固定されている。高齢者の利用が多く、若年層の利用が少ない。
申し込みが多く、希望者が参加できない講座がある。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
主催講座事業	市民のニーズに沿った学習機会(講座)を提供する	市民一人ひとりがより良い生活や自己向上を図るため、自ら学び行動することができる 活動を通じて交流が図れ、新たなコミュニティが生まれる	生涯学習機会の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

・主催講座事業(43講座・うち新規10講座)
・貸館業務(サークル・団体等：9時～21時)

② 活動指標

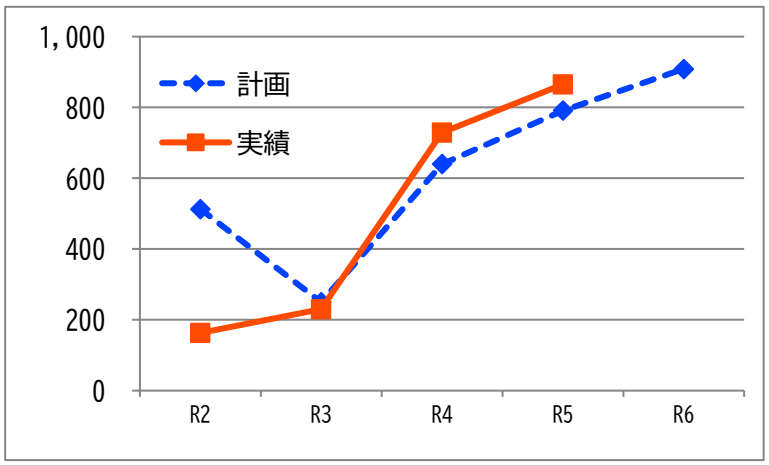
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	主催講座事業数	講座	計画	28	18	36	39	45
			実績	15	18	36	43	
イ	自主事業数(自主グループ・サークル)	団体	計画	18	14	22	25	26
			実績	14	12	25	25	

③ 成果指標

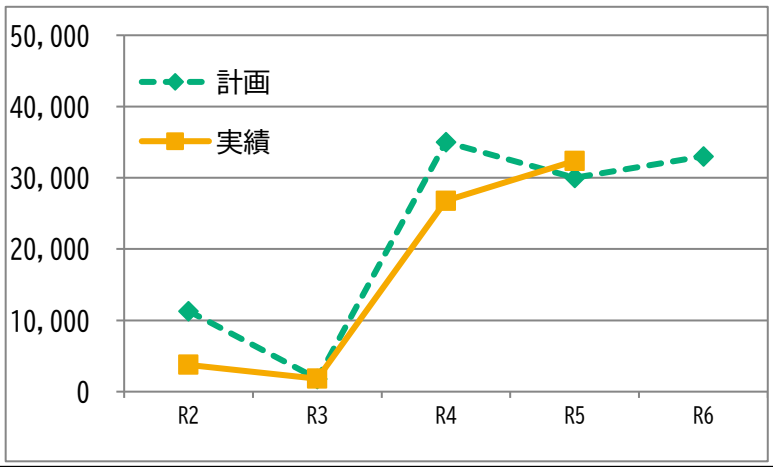
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	主催講座事業受講者数	増やす	人	計画	513	250	640	791	909
				実績	163	230	729	865	
イ	延べ利用者数	増やす	人	計画	11,300	1,800	35,000	30,000	33,000
				実績	3,766	1,813	26,786	32,372	

④成果指標の動向

指標ア　主催講座事業受講者数



指標イ　延べ利用者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 報償金	720	674	1,349	1,449	1,702
	2. 保険料	118	118	118	118	0
	3. 消耗品	44	62	57	75	100
	4. 修繕料	20	20	20	20	20
	5. その他	26	9	6	4	10
	合計	928	883	1,550	1,666	1,832
財源内訳	国･県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	928	883	1,550	1,666	1,832
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	3	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.報償金	講座講師謝金
2.保険料	公民館総合保障制度加入
3.消耗品	講座用消耗品
4.修繕料	ミシン点検修理
5.その他	クリーニング代、講座通知用切手代

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

1. 報奨金　新規講座分の増
2. 保険料　増減なし
3. 消耗品　新規講座分の増
4. 修繕料　増減なし
5. その他　作品展用布クリーニングを廃止したため

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		順調	市民ニーズに合わせた新規講座を開催した。子どもや若者が参加できる講座を開催した。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	好調維持	新規講座を開催したため、事業数･受講者ともに増加した。
	指標イ	好調維持	施設が周知され、定期利用団体以外の新規利用者も増加した。

③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR6以降の方針）	判定	方針	判定･方針の詳細
	継続実施		講座参加者の満足度は高く、参加者の交流も図れ、生きがいになっている。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	40500①	図書館活動費（図書の充実）（市図書館と図書施設のネットワーク）

施策体系		
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	26	図書館及び関連施設の充実
戦略事業名	125	図書の充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	4
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	昭和38年度			
根拠法令	図書館法・旭市図書館設置条例・旭市図書館規則ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育のための情報や資料を入手し提供する事業。①図書館協議会の開催②図書館資料の貸出、返却、予約・リクエスト処理③延滞資料の督促④資料（図書・雑誌・CD等）の選書、発注、納品確認、データ登録⑤資料の移動、除籍、リサイクル処理⑥リクエスト本の他自治体への相互協力依頼⑦学校・公民館図書室への図書の配送⑧市民への資料相談⑨おはなし会等各種イベントの開催⑩読書推進のための推薦図書リストの作成（広報・ホームページ・ブックリスト）⑪研修生の受入れ⑫家庭教育での読み聞かせ指導

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

昭和32年に旭中央公民館設置（図書室併設）。昭和38年に旭市図書館設置条例公布。昭和41年に完成した旭市民会館の1階で、図書館サービスを提供。令和3年に千葉県立東部図書館内へ移転。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

千葉県立東部図書館内で、県と市がそれぞれの図書館サービスを提供している。
（利用者アンケートより）県と市の図書館を利用でき便利。ホームページがきれいになり感心した。広くて静かで、駐車場もきれいで利用しやすい。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
資料の収集、整理、保存をし、図書館利用者（学校や保育園などの団体も含む）が求める情報の提供、資料の貸出をする。	地域住民に、無料で情報、資料を提供する。 地域住民が、ニーズに応じて図書館が開催する講座、イベントに参加する。	市民が、いつでも、身近に学習の機会があることによる住民満足度、教育水準の向上と、知識、文化の継承による市の発展。	図書館及び関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

- 本、雑誌、CD等の貸出、購入、除籍
- 資料相談
- 学校等支援
- 講座、イベントの開催
- ブックリストの作成、配布

② 活動指標

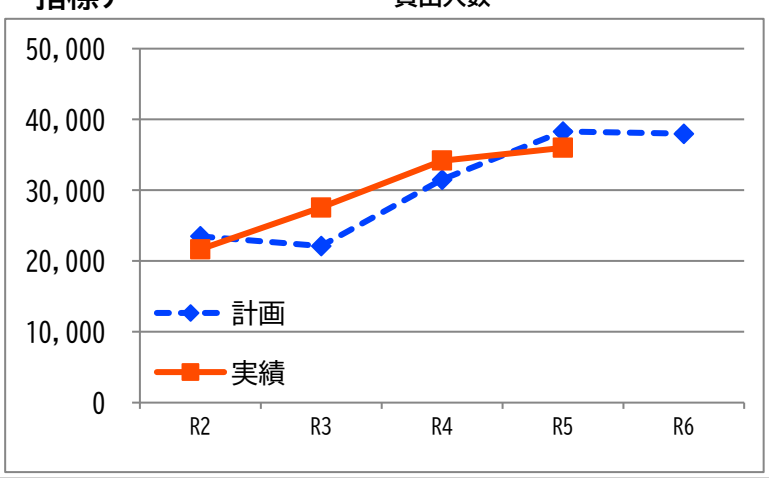
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	本の受入れ冊数	冊	計画	3,000	4,100	4,100	4,505	3,460
			実績	3,125	4,122	4,168	4,343	
イ	本の貸出冊数	冊	計画	73,600	70,000	98,500	109,000	104,500
			実績	68,540	85,105	101,214	103,836	

③ 成果指標

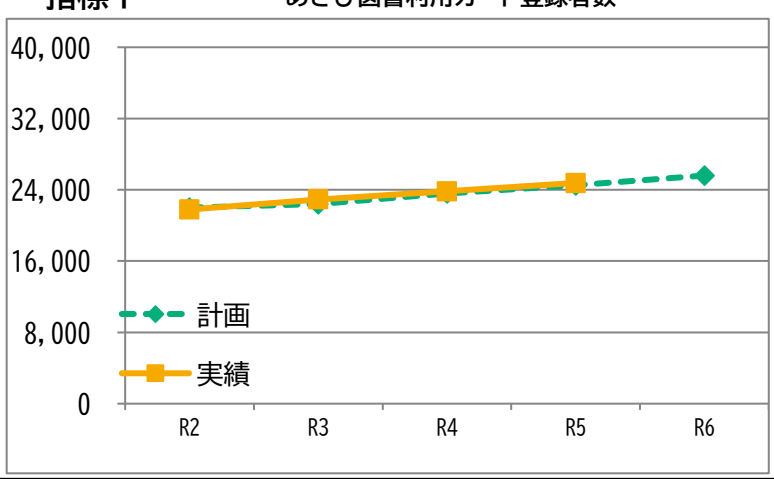
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	貸出人数	増やす	人	計画	23,500	22,120	31,500	38,300	38,000
				実績	21,659	27,575	34,179	35,986	
イ	あさひ図書利用カード登録者数	増やす	人	計画	22,000	22,400	23,600	24,500	25,600
				実績	21,790	22,919	23,831	24,770	

④成果指標の動向

指標ア　貸出人数



指標イ　あさひ図書利用カード登録者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 備品購入費	5,000	6,999	7,205	8,000	6,916
	2. 使用料及び賃借料	5,216	6,064	6,281	6,363	6,362
	3. 賃金	9,256	13,711	16,717	20,432	25,892
	4. 需用費	2,588	3,139	4,106	3,727	4,505
	5. その他	1,166	1,213	1,383	1,402	1,451
	合計	23,226	31,126	35,692	39,924	45,126
財源内訳	国･県支出金					
	地方債					
	その他	1,560	2,400	5,000	8,000	6,900
	一般財源	21,666	28,726	30,692	31,924	38,226
	一般財源の比率	93.3%	92.3%	86.0%	80.0%	84.7%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	6	人	×	37	日	=	延べ 222	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.備品購入費	図書購入
2.使用料及び賃借料	図書館情報システム機器賃貸借
3.賃金	会計年度任用職員報酬
4.需用費	雑誌・新聞・ブックスタートパック購入、光熱水費
5.その他	報償費、通信運搬費、委託料、負担金

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	ふるさと応援基金繰入金

⑤ R4→R5 増減理由

費用内訳の1.備品購入費においては、寄付金100万を児童書購入にあてたことによる増加。
3.賃金においては、会計年度職員（一般事務3人、司書4人）各々の時給が上がったことによる増加。
4.需用費においては、印刷製本費における微減。数年おきに購入している印刷物の購入がなしだったため。

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	図書館資料の貸出、リクエスト処理や除籍、データ登録などが継続的に行われ、健全な図書館の運営、管理を維持している。令和5年度、図書館で開催するイベントにおいては、既存で例年実施されるイベント以外に2イベント増で実施、ブックスタート事業では、コロナ禍で中止していた読み聞かせを再開した。また、いいおかユートピアセンター図書室を見直し、棚や配架図書を移動して全面的にリニューアルした。読書推進のための推薦図書リストは年度始めや夏休み前などの機会に作成。図書館だよりは年7回発行している。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	向上	令和5年度から、イベントや講座の周知にSNS（LINEとFacebook）を活用し、広報やHP以外のSNSだけで総数44回発信した。定期的にPRし、来館のきっかけをつくることで貸出人数の増加を確保できた。
	指標イ	向上	例年実施される既存のイベント、講座の他に「英語でおはなし会」と「影絵でおはなし会」の2イベント増やし、既存のおはなしの時間の来館者とは違うニーズをもつ地域住民にアプローチすることで、図書館への来館、利用促進につなげた。

	判定		方針	判定･方針の詳細
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR6以降の方針）	見直し	➡	その他	海上公民館図書室の利用促進のため、蔵書、配架状況の見直し。 読み聞かせボランティア団体（旭市読書ボランティア団体）の存続の方法を再考。多くの読み手が担っていた保護者（母親）のワーク事情の変化や新型コロナパンデミック期を経て、活動が衰退しつつあり、地域学校協働活動における読み聞かせボランティアと既存の旭市読書ボランティア団体の情報共有や今後のお互いの活動の在り方などを再考する。

事務事業評価シート　令和　5　年度事後評価・決算

令和　6　年 11　月　1　日

事業コード・事務事業名	41100	海上公民館管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	6
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和56年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

【維持管理業務】市民一人ひとりが、自ら学び自ら行動し、より良い生活や自己向上を高めるために、様々な学習機会を提供する場として、快適かつ安全で利用しやすい施設となるよう、公民館施設の維持管理及び改修を行い整備する事業。①乳幼児、高齢者、身障者が利用しやすい施設。②建築基準法、消防法等の法令に適合した安全な施設。③コスト削減、エコエネルギーに対応した施設。④情報の収集力の高いITに対応した施設を目指す。
【貸館業務】一般団体、サークル活動等の(ホール、研修室4、和室3、多目的ルーム、陶芸室、ラポート24)貸館業務(開館時間　9時～22時　休館日　月・祝日・年末年始休館)。【図書貸出業務】図書の貸出、図書室の管理。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

社会教育法21条を根拠とし、昭和56年に事業開始。主に定期講座、一般サークルへの貸館、図書の貸出を行っている。昭和61年に展示閲覧室を増築している。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

改修整備費用は多額となることが予想される。そのため費用の確保は困難であり、補助事業などの活用や低予算での整備が課題。
利用者アンケートでは「ほぼ満足している」方が多い。
利用者アンケートでは「地元の公共施設として無くてはならない身近な施設として不可欠である」との意見が他地域に比べて多い。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	➡	提供するモノやサービス	➡	成果	➡	施策の展開	➡	基本施策	➡	基本目標
施設の維持管理		安心で安全な学習の場を提供する		市民が利用しやすい安全な施設		生涯学習関連施設の充実		生涯学習の充実		結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

- ｼｬｯﾀｰﾊﾞｯﾃﾘｰ及び発信機交換
- 1階ﾛﾋﾞｰ外空調機修繕
- 2階研修室北側廊下ｸﾛｽ修繕工事
- 1階男子ﾄｲﾚ洋式扉修繕修理
- 1階男子ﾄｲﾚつまり修理
- 陶芸作業場照明器具交換工事
- 1階ﾛﾋﾞｰ空調屋外機修繕
- 2階第3研修室床補修工事
- 2階第4研修室床補修工事

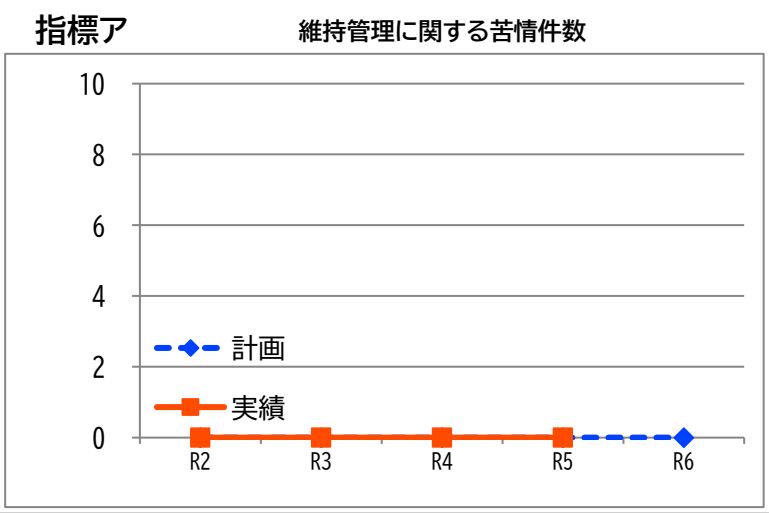
② 活動指標

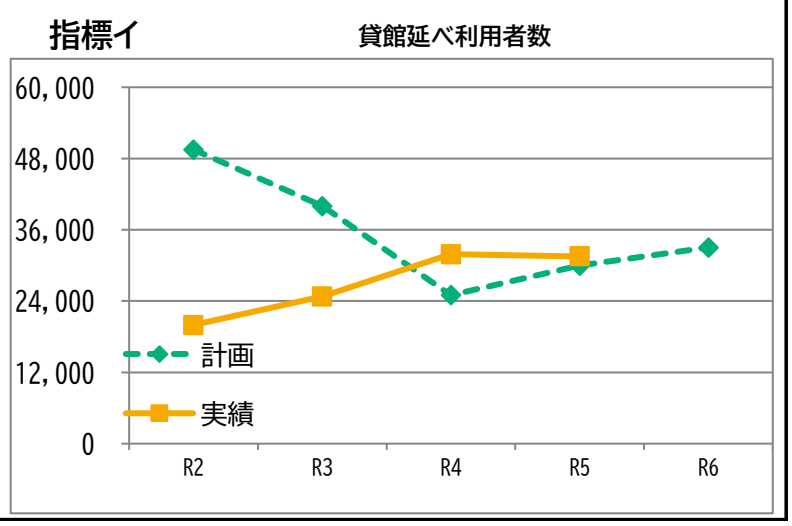
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	修繕回数	回	計画	4	5	2	5	2
			実績	11	9	11	9	
イ	貸館予約受付・申請数	件	計画	450	400	400	400	400
			実績	271	339	386	390	

③ 成果指標

	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	維持管理に関する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	0	0	0	0	
イ	貸館延べ利用者数	増やす	人	計画	49,500	40,000	25,000	30,000	33,000
				実績	19,983	24,764	31,902	31,538	

④成果指標の動向





(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 賃金	3,594	4,182	4,362	4,666	6,035
	2. 需用費	8,155	10,057	6,929	4,786	6,030
	3. 役務費	340	366	488	455	474
	4. 委託料	5,313	5,844	5,709	6,310	7,535
	5. その他	285	1,112	504	11,774	4,886
	合計	17,687	21,561	17,992	27,991	24,960
財源内訳	国・県支出金					
	地方債				9,700	3,800
	その他	1,145	1,474	2,112	1,977	2,025
	一般財源	16,542	20,087	15,880	16,314	19,135
	一般財源の比率	93.5%	93.2%	88.3%	58.3%	76.7%

② 従事職員数

常時 5 人

最大 人 × 日 ＝ 延べ 人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.賃金	報酬、職員手当、共済費、旅費
2.需用費	消耗品、光熱水費、修繕料
3.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
4.委託料	清掃、受付業務、樹木剪定、耐震調査、他
5.その他	工事請負費、備品購入費、共済費、使用料賃借料、公課費

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	0
地方債	社会教育施設改修事業債
その他	公民館使用料

⑤ R4→R5 増減理由

1. 賃金　微増のみ
2. 需用費　光熱水費及び修繕料の減
3. 役務費　微減のみ
4. 委託料　受付業務等委託料及び浄化槽維持管理等委託料の増
5. その他　公民館等改修工事の増

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		順調	市民の学習の場として、安全でかつ安心な施設に向けて、随時整備できている。経年劣化により必要な維持補修は増えていくが、定期的なメンテナンスを欠かさず、早期に対応し低コストで状態維持を継続したい。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	好調維持	昨年同様、維持している。引き続き継続していきたい。
	指標イ	好調維持	サークル使用団体の減少もあったが、新規主催講座や定期利用団体以外の利用者は増加しているため、好調を維持している。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		生涯学習の場をこれからも提供していく上では欠かせない施設となっている。しかし、施設の老朽化が進んでおり、いずれ大規模改修が必要となるが、定期的なメンテナンスを継続し低コストで維持管理していきたい。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	41200①	海上公民館活動費（海上公民館活動費）（講座）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	24	生涯学習機会の充実
戦略事業名	121	生涯学習施設活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	6
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和56年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

市民一人ひとりが、自ら学び自ら行動し、より良い生活や自己向上を高めるために、様々な学習機会を提供する事業。
①各種講座・教室の開催：水彩画、ヨガ、陶芸、琴など。通年コースが多い。月1～2回2時間。定員15～50人程度
②イベントの開催（海上公民館まつりなど）。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

社会教育法21条を根拠とし、昭和56年に事業開始。主に市主催の定期講座、一般サークルへの貸館、図書の貸出を行っている。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

開始当初は、他団体・民間等で同様の事業を行っている団体は少なかったが、最近は趣味的な内容の事業を他団体でも実施している。また、住民層の学習意欲や社会意識の多様化により、多人数構成の講座には無理が生じている。
・利用者アンケートでは「ほぼ満足している」方が多い。
・講座受講者から、マンネリ化している講座の見直しをして欲しいとの意見あり
・利用者アンケートでは「地元の公共施設として無くてはならない身近な施設として不可欠である」との意見が他地域に比べて多い。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
講座を提供する	➡ 学習意欲を促す	➡ よりよい生活や自己向上につながる	➡ 生涯学習機会の充実	➡ 生涯学習の充実	➡ 結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

学級講座は、23講座開催し、510名の受講あり。
新規講座は、5講座開催。
主催事業は、11事業開催し、2,410名の参加あり。

② 活動指標

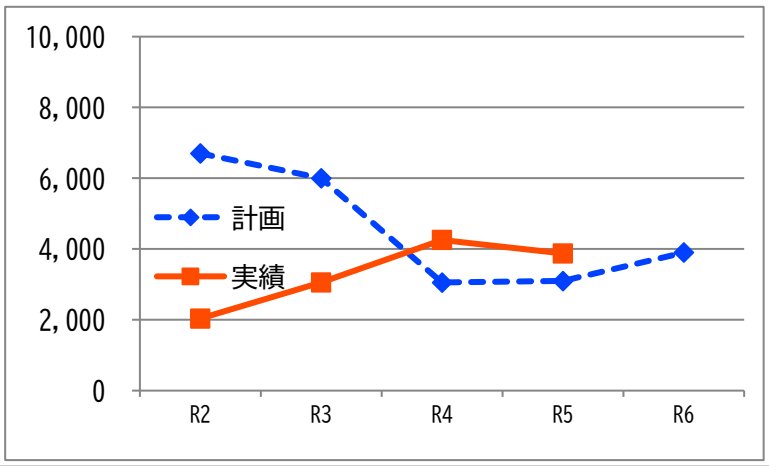
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	講座等開設数	講座	計画	28	23	20	21	23
			実績	16	20	21	22	
イ			計画					
			実績					

③ 成果指標

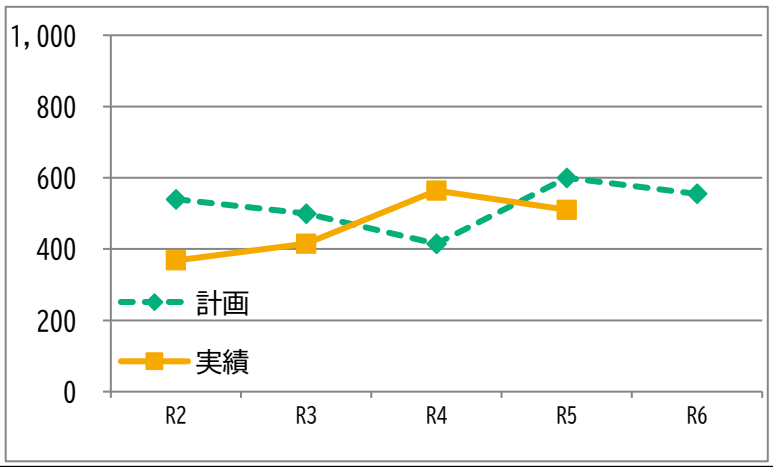
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	講座等（主催事業）参加人数（延べ人数）	増やす	人	計画	6,700	6,000	3,056	3,100	3,900
				実績	2,037	3,056	4,255	3,877	
イ	生涯学習講座受講者数（実人数）	増やす	人	計画	540	500	415	600	555
				実績	368	415	564	510	

④成果指標の動向

指標ア　講座等（主催事業）参加人数（延べ人数）



指標イ　生涯学習講座受講者数（実人数）



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 報酬	114	150	156	138	234
	2. 報償費	836	1,057	968	937	1,150
	3. 需用費	848	859	1,191	1,149	1,155
	4. 役務費	371	380	383	369	283
	5. 委託料				23	0
	6. その他	33		1	22	50
	合計	2,202	2,446	2,699	2,638	2,872
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	2,202	2,446	2,699	2,638	2,872
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	5	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.報酬	公民館運営審議会委員報酬
2.報償費	講座等講師謝礼
3.需用費	消耗品、印刷製本費、燃料費
4.役務費	通信運搬費（郵送）、手数料（折込）、保険料
5.委託料	手話通訳委託料
6.その他	旅費、使用料、負担金、備品購入費

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

1．審議会欠席者が多かったため
2．微減
3．微減
4．微減
5．講座で手話通訳業務を委託したため
6．R4千葉県公民館公民館連絡協議会負担金請求なし

suywa

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	例年開催している講座のほか、新規講座を5講座開催したが、受講希望者が少なかったことにより定員割れしてしまった講座があった。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	判定： 伸び悩み	分析(変動の要因や対策について)：新規講座を開催したが、受講希望者が少なかったため。今後は、新規講座について、現代ニーズに合った企画をし、受講者を増やしていきたいと考えています。
	指標イ	判定： 伸び悩み	分析(変動の要因や対策について)：新規講座を開催したが、受講希望者が少なかったため。今後は、新規講座について、現代ニーズに合った企画をし、受講者を増やしていきたいと考えています。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		今後も市民の学習意欲を促すような講座を提供し、生き甲斐を作る場として継続していきたい。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	41200②	海上公民館活動費（生涯学習リーダーバンクの充実）
施策体系 基本施策	11	生涯学習の充実
施策体系 施策の展開	24	生涯学習機会の充実
施策体系 戦略事業名	123	生涯学習ボランティアリーダーバンクの充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	6
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和56年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

市民一人ひとりが、自ら学び自ら行動し、より良い生活や自己向上を高めるために、様々な学習機会を提供する事業。
①各種講座・教室の開催：水彩画、ヨガ、陶芸、琴など。通年コースが多い。月1～2回2時間。定員15～50人程度
②イベントの開催（海上公民館まつりなど）。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

社会教育法21条を根拠とし、昭和56年に公民館事業開始。市民の自主的な活動を促進するため、市主催の生涯学習講座により講師となる人物を養成、発掘。生涯学習ボランティアリーダーバンクに登録いただき、旭市生涯学習ガイドに掲載。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

開始当初は、他団体・民間等で同様の事業を行っている団体は少なかったが、最近は趣味的な内容の事業を他団体でも実施している。また、住民層の学習意欲や社会意識の多様化により、多人数構成の講座には無理が生じている。
・利用者アンケートでは「ほぼ満足している」方が多い。　・講座受講者から、マンネリ化している講座の見直しをして欲しいとの意見あり　・利用者アンケートでは「地元の公共施設として無くてはならない身近な施設として不可欠である」との意見が他地域に比べて多い。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
生涯学習リーダーバンクの周知	➡ 講座を提供	➡ 新しい人材の発掘	➡ 生涯学習機会の充実	➡ 生涯学習の充実	➡ 結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

講座の募集・啓発活動
施設利用者・開発者にボランティアリーダーバンクの周知

② 活動指標

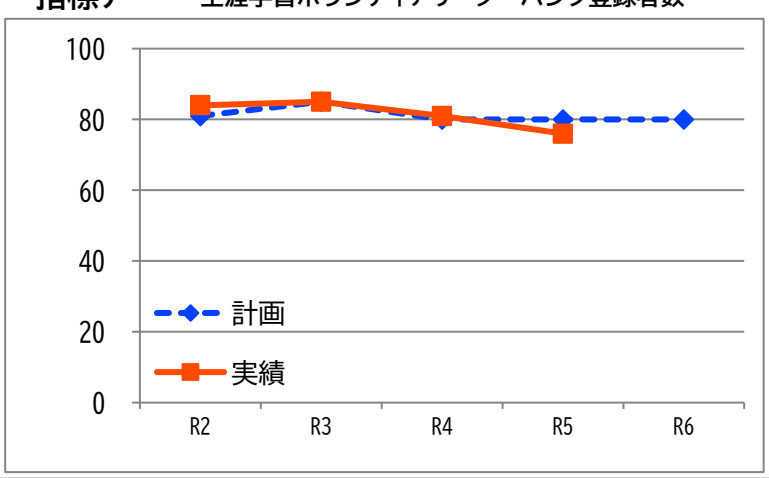
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	講座等開設数	講座	計画	28	23	20	21	23
			実績	16	20	21	23	
イ			計画					
			実績					

③ 成果指標

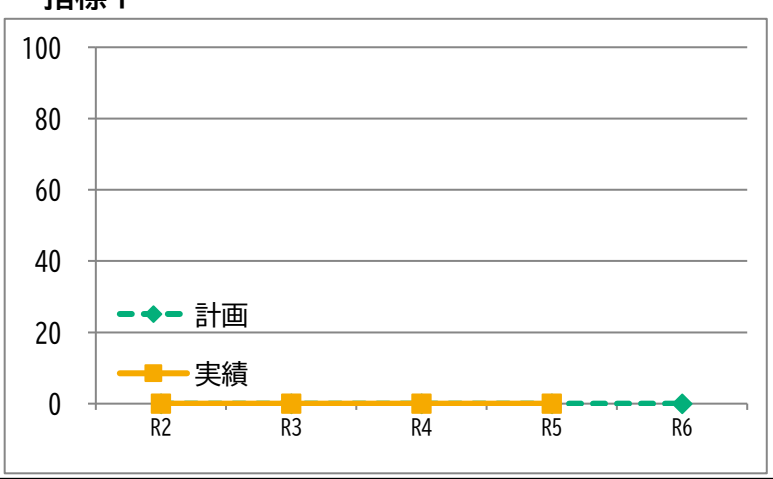
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	生涯学習ボランティアリーダーバンク登録者数	増やす	人	計画	81	85	80	80	80
				実績	84	85	81	76	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　生涯学習ボランティアリーダーバンク登録者数



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 報酬	114	150	156	138	234
	2. 報償費	836	1,057	968	937	1,150
	3. 需用費	848	859	1,191	1,149	1,155
	4. 役務費	371	380	383	369	283
	5. 委託料				23	
	6. その他	33		1	22	50
	合計	2,202	2,446	2,699	2,638	2,872
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	2,202	2,446	2,699	2,638	2,872
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	5	人					
最大		人	×		日	＝ 延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.報酬	公民館運営審議会委員報酬
2.報償費	講座等講師謝礼
3.需用費	消耗品、印刷製本費、燃料費
4.役務費	通信運搬費（郵送）、手数料（折込）、保険料
5.委託料	手話通訳委託料
6.その他	旅費、使用料、負担金、備品購入費

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

1. 審議会欠席者が多かったため
2. 微減のみ
3. 微減のみ
4. 微減のみ
5. 講座で手話通訳業務を委託したため
6. R4千葉県公民館連絡協議会負担金請求なしのため

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	市民に興味を持ってもらえるような講座ができている。今後も市民の学習意欲を促すような講座を提供していくための人材確保に尽力していく。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	低下	令和5年度に生涯学習リーダーに登録の再確認を行ったため、登録者が減少した。ホームページやSNSなどを活用して、幅広い世代に広報していく。
	指標イ		

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		市民のより良い生活や学習の場を提供するため、今後も継続して実施していく必要がある。幅広い学習ニーズに対応するため、今後も講師の発掘・育成に尽力していく。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	41300	干潟公民館管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	6
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和49年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☑ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

地域における生涯学習活動を担う施設として、施設の維持管理及び運営を行う。
また、市民が新しい知識を得たり、さまざまな体験をし、健やかな生涯を過ごすための学習の場、交流の場として情報の提供を行い、各種講座教室の開催をする。
【開館時間】9時～17時。但し、夜間利用がある場合は21時まで開館。【閉館日】月曜、祝日、年末年始
【館内施設】大ホール、研修室3、音楽室2、和室1、調理実習室1、図書室1

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

平成17年に1市3町が合併し、今まで当該公民館としては、主催事業及び学級講座については実施していなかったが、合併前の他市町公民館等との均衡を図るため実施することとなったものである。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

・令和2年4月に旧公民館(解体済み)より現施設に移転し、公民館事業及び学級講座を実施している。内装の大規模改修をしていない部分の老朽化対策を適正に行う必要がある。
・利用者からは、「施設がきれいで良いですね」との意見が多く、これからも施設の維持管理を適正に行っていく。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	➡	提供するモノやサービス	➡	成果	➡	施策の展開	➡	基本施策	➡	基本目標
施設の維持管理	➡	安心で安全な学習の場を提供する	➡	市民が利用しやすい安全な施設	➡	生涯学習関連施設の充実	➡	生涯学習の充実	➡	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

・感知器増設
・浄化槽修繕
・雨水配管破損修繕

② 活動指標

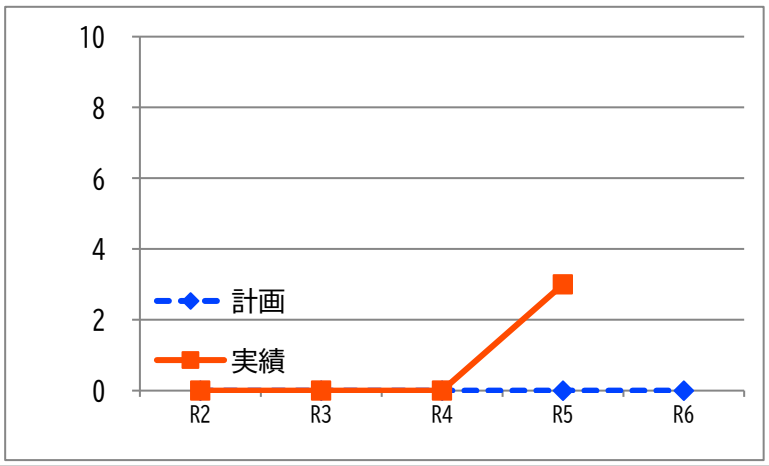
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	修繕件数	件	計画	0	0	1	1	0
			実績	0	4	4	3	
イ	貸館件数	件	計画	360	360	360	360	900
			実績	398	614	863	892	

③ 成果指標

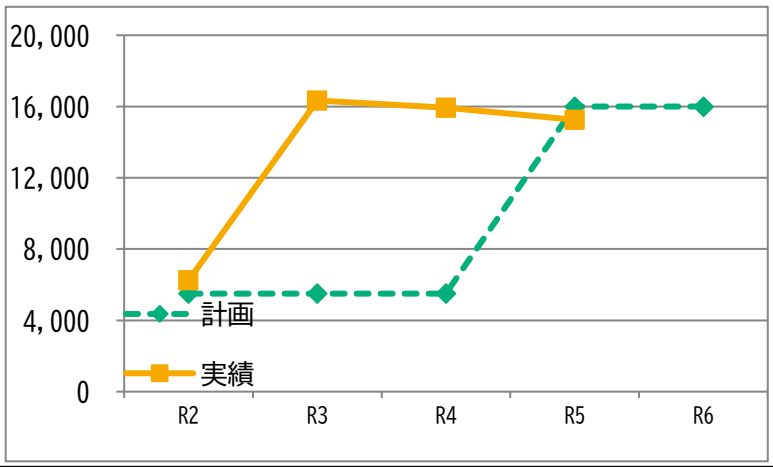
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	施設に関する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	0	0	0	3	
イ	延べ利用者人数	増やす	人	計画	5,500	5,500	5,500	16,000	16,000
				実績	6,241	16,337	15,935	15,256	

④成果指標の動向

指標ア　施設に関する苦情件数



指標イ　延べ利用者人数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 賃金	4,277	4,300	4,514	4,637	8,246
	2. 需用費	3,603	3,273	3,957	3,942	5,272
	3. 役務費	598	517	552	540	571
	4. 委託料	5,419	5,115	5,785	6,080	6,791
	5. その他	306	99	278	283	264
	合計	14,203	13,304	15,086	15,482	21,144
財源内訳	国･県支出金					
	地方債					
	その他	211	400	614	746	678
	一般財源	13,992	12,904	14,472	14,736	20,466
	一般財源の比率	98.5%	97.0%	95.9%	95.2%	96.8%

② 従事職員数

常時	3	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.賃金	報酬・職員手当等・共済費・旅費
2.需用費	消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料
3.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
4.委託料	受付業務委託料、エレベーター等保守点検委託料等
5.その他	放送受信料、賃借料、改修工事費、備品費等

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	公民館使用料（干潟公民館）、光熱水費等利用者負担分

⑤ R4→R5　増減理由

1. 微増のみ
2. 微減のみ
3. 微減のみ
4. 微増のみ
5. 微減のみ

(4)事務事業に関する評価

	判定		分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調		市民の学習の場として、安全でかつ安心な施設に向けて、随時整備できている。経年劣化により必要な維持補修は増えていくが、定期的なメンテナンスを欠かさず、早期に対応し低コストで状態維持を継続したい。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	判定 伸び悩み	分析(変動の要因や対策について) 2階トイレは便座のみの改修(和式から洋式)を行ったが、大規模改修された1階のトイレに比べ、便座･洗面台などの機能性が悪く、2階利用者の多くの方がキレイで衛生的な1階トイレを使用している。高齢の方も多く、不便を感じているようである。 改修されたホール･研修室等は、昨年同様に高評価をいただいている。引き続き継続していきたい。
	指標イ	判定 好調維持	分析(変動の要因や対策について) 定期利用団体は昨年と同等であるが、学級講座の減があったがサークル活動での利用が増加した。しかし、利用者数は4年度には、がん検診･議会議員選挙が実施されていたため減少した。公民館利用者(講座･サークル活動等)は増加してため好調維持とする。今後も安心で安全な施設を維持していきたい。

	判定		方針	判定･方針の詳細
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施			生涯学習の場をこれからも提供していく上では欠かせない施設となっている。しかし、改修していない部分や、一部のみの改修(2階トイレ)の老朽化が進んでおり、定期的なメンテナンスを継続し、低コストで維持管理していきたい。学級講座に関しては、新規講座を設け、より充実したものとする。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	41400①	干潟公民館活動費（干潟公民館活動費）（講座）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	24	生涯学習機会の充実
戦略事業名	121	生涯学習施設活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	6
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和49年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

地域における生涯学習活動を担う施設として、施設の維持管理及び運営を行う。
また、市民が新しい知識を得たり、さまざまな体験をし、健やかな生涯を過ごすための学習の場、交流の場として情報の提供を行い、各種講座教室の開催をする。
【開館時間】9時～17時。但し、夜間利用がある場合は21時まで開館。【閉館日】月曜、祝日、年末年始
【館内施設】大ホール、研修室3、音楽室2、和室1、調理実習室1、図書室1

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

平成17年に1市3町が合併し、今まで当該公民館としては、主催事業及び学級講座については実施していなかったが、合併前の他市町公民館等との均衡を図るため実施することとなったものである。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・令和2年4月に旧公民館（解体済み）より現施設に移転し、公民館事業及び学級講座を実施している。内装の大規模改修をしていない部分の老朽化対策を適正に行う必要がある。
・利用者からは、「施設がきれいで良いですね」との意見が多く、これからも施設の維持管理を適正に行っていく。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
講座を提供する	➡ 学習意欲を促す	➡ よりよい生活や自己向上につながる	➡ 生涯学習機会の充実	➡ 生涯学習の充実	➡ 結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

学級講座は、10講座開催し、175名の受講あり。
単発講座は、1講座開催し8名（4組）の受講あり。
主催事業は、2事業開催し、31名の参加あり。
新規講座は、1講座1事業開催。

② 活動指標

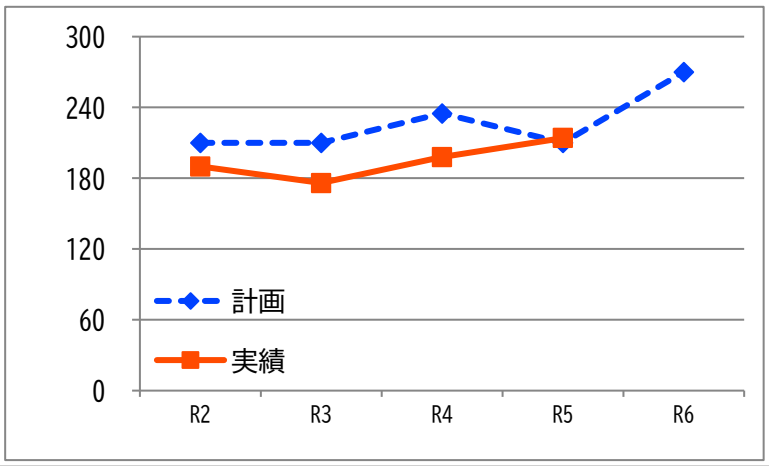
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	主催事業企画数	事業	計画	0	0	0	0	0
			実績	0	0	0	0	
イ	学級講座企画数	講座	計画	10	10	12	14	18
			実績	10	10	14	14	

③ 成果指標

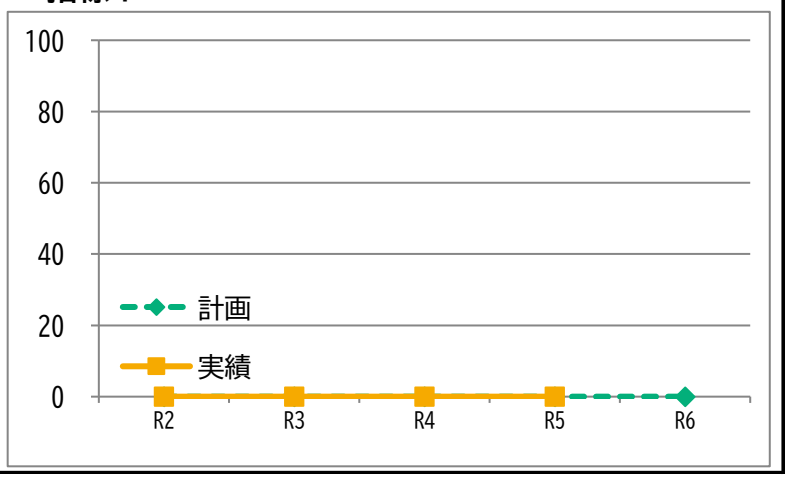
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	学級講座受講者数	増やす	人	計画	210	210	235	210	270
				実績	190	176	198	214	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　学級講座受講者数



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 報償費	576	674	781	691	881
	2. 需用費	91	88	82	85	86
	3. 役務費	134	135	135	135	34
	4. 使用料及び賃貸料					
	5. その他					
	合計	801	897	998	911	1,001
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	801	897	998	911	1,001
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	3	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.報償費	報奨金
2.需用費	消耗品費
3.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
4.使用料及び賃貸料	施設等入場料
5.その他	

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

1. 講座減による
2. 微増のみ
3. 増減なし

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		停滞	学級講座が1減であるため、伸び悩んでいる。また、来年度は講師の都合で定員を減らした講座もある。 今後は市民の学習意欲を促すような新規講座を提供し、生き甲斐を作る場所として継続していきたい。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	好調維持	学級・講座受講者も増加傾向にあり順調に事業を実施できている。今後も市民の学習意欲を促すような新規講座の提供を行い、生涯学習の推進に努める。
	指標イ		

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		今後も市民の学習意欲を促すような講座を提供し、生き甲斐を作る場として継続していく。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	41500	海上ふれあい館管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	7
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	平成9年度			
根拠法令	海上ふれあい館の設置及び管理に関する条例			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

JR飯岡駅舎との複合施設。
ふれあいサロン(22.39㎡)、ふれあいギャラリー(38.20㎡)、飯岡駅トイレが設けられており、各施設の維持管理を行う。
ふれあいサロンおよび飯岡駅トイレは、飯岡駅利用者の待合室や地域住民の憩いの場となっている。
ふれあいギャラリーは、文化活動の支援として学習活動(作品等)の発表の場となっている。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

市民の文化活動の支援及び地域住民の融和を図るため、平成9年9月から飯岡駅改修に伴い開館。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

海上地区内のサークルだけでなく、他地区からの貸出申請が提出されるようになった。
展示品の販売をさせてほしい。
来場者用駐車場が無い。(飯岡駅駐車場が無い)
駐輪場を整備してほしい。(違反駐輪が多い)

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
展示室を提供する	市民が実施している文化・芸術活動の作品等を掲示する	旭市民の魅力が市内外に伝わり、旭市のPRにも繋がる	生涯学習関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

24件の作品展示・発表を行った.

② 活動指標

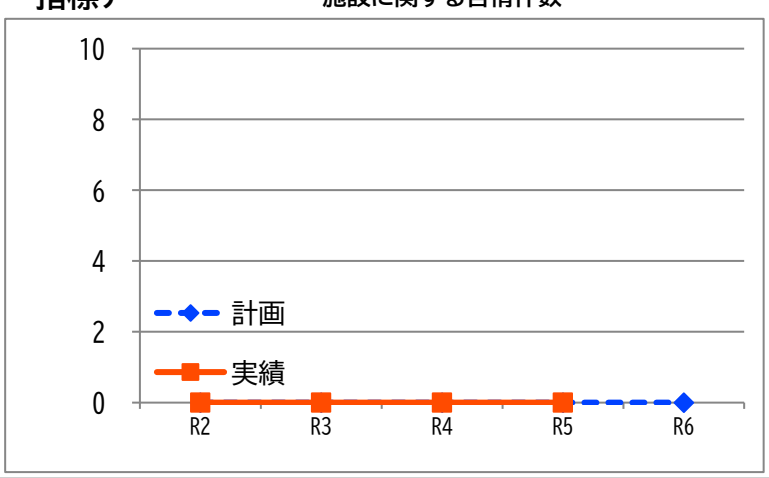
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	修繕件数	件	計画	1	2	0	1	1
			実績	4	0	1	4	
イ	貸館件数	件	計画	24	25	25	25	26
			実績	22	25	25	24	

③ 成果指標

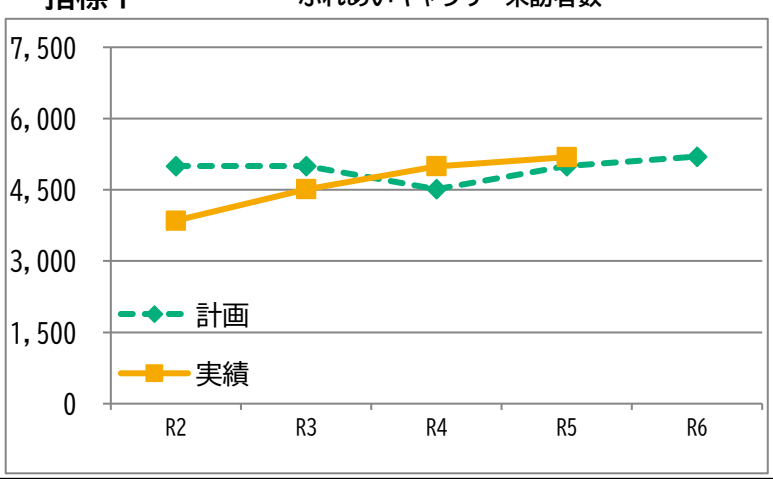
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	施設に関する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	0	0	0	0	
イ	ふれあいギャラリー来訪者数	増やす	人	計画	5,000	5,000	4,513	5,000	5,200
				実績	3,853	4,513	4,996	5,188	

④成果指標の動向

指標ア　施設に関する苦情件数



指標イ　ふれあいギャラリー来訪者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 需用費	2,162	643	856	1,118	1,196
	2. 役務費	163	163	165	165	172
	3. 委託料	1,471	1,505	1,534	1,653	1,670
	4. 使用料及び賃借料	25	24	25	25	24
	5. その他					
	合計	3,821	2,335	2,580	2,961	3,062
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	3,821	2,335	2,580	2,961	3,062
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	3	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.需用費	消耗品費、光熱水費、修繕料
2.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
3.委託料	施設維持管理委託料、浄化槽維持管理等委託料、清掃等委託料
4.使用料及び賃借料	放送受信料、諸借上料
5.その他	工事請負費、教育用備品費

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

1. 展示室エアコン取替工事実施による増
2. 増減なし
3. 清掃業務委託料の増
4. 増減なし

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調	新規の展示者が増加して、今までより幅広い年代の人が訪れるようになった。施設の修繕も進み、利用しやすい環境を整備することができた。

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	好調維持	今後も市民の憩いの場として、より良い環境作りを検討していきたい。
	指標イ	向上	順調に伸びているので、今後も旭市の文化活動をより広められるように検討していきたい。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		今後も市民の憩いの場であり、文化活動に触れられる場所を提供していきたい。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	41800	いいおかユートピアセンター管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	8
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	平成2年度			
根拠法令	いいおかユートピアセンターの設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

各種講座・教室・主催事業の開催、一般・定期利用団体の使用申請の受付や許可、図書の貸出しや管理、旧町史や文化振興事業の入場券の販売、施設の維持管理など。
【開館時間】9時～17時。但し、夜間利用がある場合は21時まで開館。【閉館日】月曜、祝日、年末年始
【館内施設】会議室　2、研修室　1、和室　1、栄養指導室　1、　大ホール(1,000人収用)　1、図書室　1、陶芸室　1

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

・市民が、生きがいを見つけ、充実した生活が送れるようにするため、平成元年に施設を設置し、翌2年度から事業を開始。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

・講座からサークルに移行して自立する団体が出来てきた。
・民間でも同様な教室(カルチャーセンター)があって新鮮味が薄れてきている。
・施設利用者からは「講座がマンネリ化している。新しいものを取り入れてほしい。」との意見・要望がある。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動		提供するモノやサービス		成果		施策の展開		基本施策		基本目標
施設の維持管理業務 貸館業務	➡	市民が利用しやすい安全・快適な施設	➡	市民が利用しやすい安全・快適な施設として社会教育学習の向上を図る	➡	生涯学習関連施設の充実	➡	生涯学習の充実	➡	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

・施設の維持管理業務
　空調設備改修工事
　排煙設備改修工事
　外壁改修工事
　2階ホール・1階廊下床カーペット改修工事
・貸館業務
　1,171回　27,544人

② 活動指標

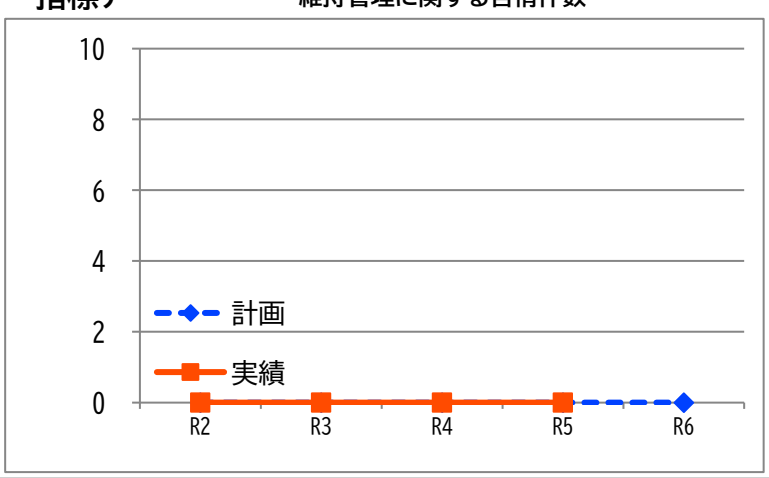
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	修繕回数	回	計画	10	10	7	6	8
			実績	16	8	13	12	
イ	貸館件数	件	計画	1,140	1,100	932	1,100	1,200
			実績	637	932	1,012	1,171	

③ 成果指標

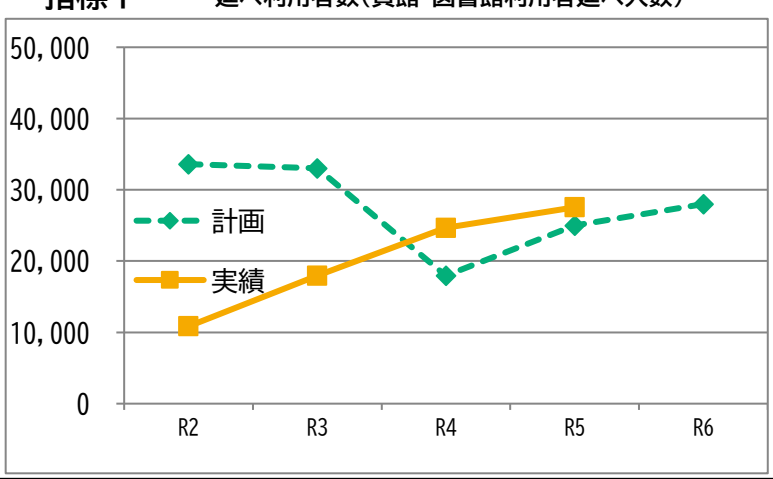
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	維持管理に関する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	0	0	0	0	
イ	延べ利用者数(貸館・図書館利用者延べ人数)	増やす	人	計画	33,600	33,000	17,960	25,000	28,000
				実績	10,847	17,960	24,670	27,544	

④成果指標の動向

指標ア　維持管理に関する苦情件数



指標イ　延べ利用者数(貸館・図書館利用者延べ人数)



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 委託料	5,045	4,996	5,600	5,248	5,701
	2. 光熱水費	2,520	2,935	4,939	4,565	6,426
	3. 臨時雇賃金	2,450	3,038	2,801	2,909	3,998
	4. 修繕工事等	5,900	9,572	11,535	27,668	73,161
	5. その他	1,931	1,657	1,938	2,034	2,014
	合計	17,846	22,198	26,813	42,424	91,300
財源内訳	国･県支出金					
	地方債				18,900	65,300
	その他	533	824	1,058	1,310	1,095
	一般財源	17,313	21,375	25,755	22,214	24,905
	一般財源の比率	**97.0%**	**96.3%**	**96.1%**	**52.4%**	**27.3%**

② 従事職員数

常時	5	人						
最大		人	×		日	＝	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.委託料	夜間受付、日常清掃、浄化槽点検、警備保障、等
2.光熱水費	光熱水費
3.臨時雇賃金	報酬、手当、共済費、旅費
4.修繕工事等	修繕工事費等
5.その他	消耗品、燃料費、役務費、賃借料、公課費等

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国･県支出金	
地方債	社会教育施設改修事業債
その他	ユートピアセンター施設使用料ほか諸収入

⑤ R4→R5　増減理由

１．Ｒ４年度は、外壁調査診断委託を行った。
２．Ｒ５年９月に全館ＬＥＤ化による電気使用量の減。
３．微増のみ
４．外壁改修工事等大きな改修工事を行った。
５．微増のみ

地方債：外壁改修工事における事業債

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		**概ね順調**	各種活動が活発になってきて、利用が増えてきている。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	**好調維持**	施設の改修工事を順次行っている。
	指標イ	**向上**	イベント等も開催されるようになるなど、活動が活発になってきた。

③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR6以降の方針）	判定	方針	判定･方針の詳細
	継続実施		施設長寿命化のため計画的に改修工事を実施する。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	41900①	いいおかユートピアセンター活動費（いいおかユートピアセンター活動費）（講座）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	24	生涯学習機会の充実
戦略事業名	121	生涯学習施設活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	8
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	平成2年度			
根拠法令	いいおかユートピアセンターの設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

各種講座・教室・主催事業の開催、一般・定期利用団体の使用申請の受付や許可、図書の貸出しや管理、旧町史や文化振興事業の入場券の販売、施設の維持管理など。
【開館時間】9時～17時。但し、夜間利用がある場合は21時まで開館。【閉館日】月曜、祝日、年末年始
【館内施設】会議室　2、研修室　1、和室　1、栄養指導室　1、　大ホール（1,000人収用）　1、図書室　1、陶芸室　1

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

・市民が、生きがいを見つけ、充実した生活が送れるようにするため、平成元年に施設を設置し、翌2年度から事業を開始。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・講座からサークルに移行して自立する団体が出来てきた。
・民間でも同様な教室（カルチャーセンター）があって新鮮味が薄れてきている。
・施設利用者からは「講座がマンネリ化している。新しいものを取り入れてほしい。」との意見・要望がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	⇨	提供するモノやサービス	⇨	成果	⇨	施策の展開	⇨	基本施策	⇨	基本目標
主催講座の開催	⇨	教養の向上や健康の増進につながるような講座の開催	⇨	市民が健康でいきいきと、心豊かな生活を送れるようにする	⇨	生涯学習機会の充実	⇨	生涯学習の充実	⇨	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

・主催講座の開催
　主催講座（14講座）・主催事業（2講座）開催
　新規にスマートフォン講座を開催

② 活動指標

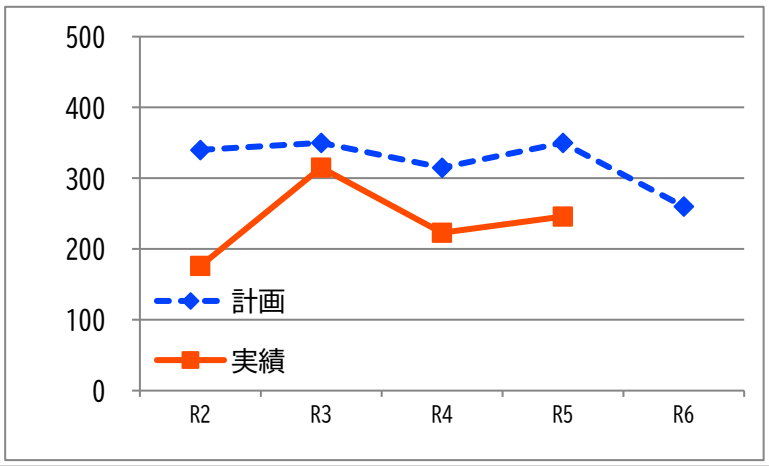
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	講座数	講座	計画	13	13	13	14	15
			実績	13	13	13	14	
イ	主催事業数	教室	計画	2	2	2	2	2
			実績	0	2	2	2	

③ 成果指標

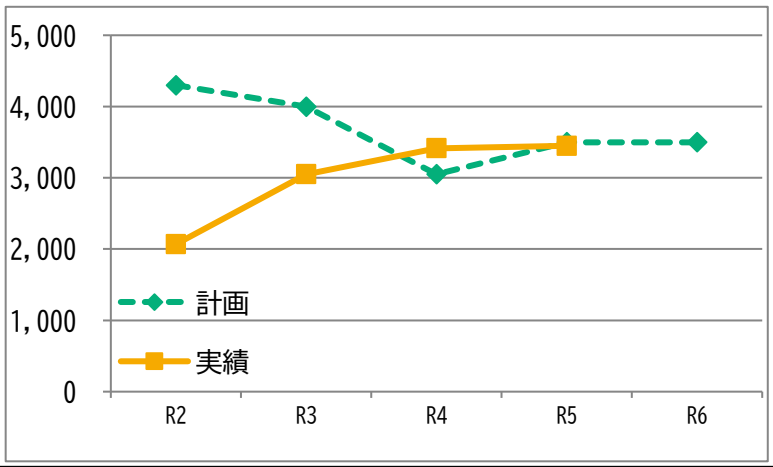
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	講座・主催事業参加者（実人数）	増やす	人	計画	340	350	315	350	260
				実績	176	315	223	246	
イ	延べ利用者数（講座・主催事業参加者延べ人数）	増やす	人	計画	4,300	4,000	3,050	3,500	3,500
				実績	2,069	3,050	3,414	3,449	

④成果指標の動向

指標ア　講座・主催事業参加者（実人数）



指標イ　延べ利用者数（講座・主催事業参加者延べ人数）



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 報奨金	1,024	1,117	1,190	1,163	1,317
	2. 保険料	118	118	118	118	0
	3. 消耗品	32	27	49	24	47
	4. その他		8	17	17	
	合計	1,174	1,271	1,374	1,322	1,364
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	1,174	1,271	1,374	1,322	1,364
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	5	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.報奨金	講師謝金
2.保険料	保険料
3.消耗品	講座消耗品
4.その他	通信運搬費

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

1．微増のみ
2．増減なし
3．講師からの消耗品購入依頼が少なかった
4．増減なし

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	教養の向上や健康の増進につながるような講座を開催している。 新規にスマートフォン講座を開催した。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	好調維持	新規講座を開催したことにより、受講者が増加した。
	指標イ	好調維持	受講者が増えたことにより、利用者も増加した。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		講座の内容を精査し、新規講座を計画する。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	42100	大原幽学記念館管理費（活動費含む）

施策体系		
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	28	文化財の保護
戦略事業名	130	大原幽学関係資料の保護・保存

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	10
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成7年度			
根拠法令	大原幽学記念館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☑ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

大原幽学及び郷土の歴史・民俗等に関する資料を収集・保管・展示を行うことで地域文化の向上に寄与するため、古文書調査の実施、収蔵庫内の管理、企画展示や講座の開催を行う。【活動経費】臨時職員2名（館長・用務員）の賃金、講師や研究員の謝礼、印刷物の作成費などがある。【維持管理業務】記念館は敷地面積1,531.5㎡、延べ面積1,134.28㎡の鉄筋コンクリート地上2階建の施設で、展示室、収蔵庫、学習室などからなっている。国指定重要文化財の大原幽学関係資料を中心とする郷土の歴史・民俗資料の保存・管理や来館者の対応のため、設備の保守・整備を行う。保守点検（浄化槽・受電設備・消防設備・エレベーター）、館内清掃、くんじょう作業を含む館内環境調査、ネズミ防除を業者に委託している。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

大原幽学関係資料が国指定重要文化財となり、専門職員をおいた保存公開施設が必要となったため、平成8年3月に記念館が開館し、博物館施設としての業務が行われるようになった。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・新しく発見された古文書などがあり、国指定重要文化財の追加指定を目指して、継続して調査、研究を行っている。　・令和元年12月に登録博物館となり、地域の公立博物館としての役割が求められる。
・施設利用者の方から「高齢者の使用料免除がなく不満」、「せっかく良い展示があるのにPRが足りない。地域の子どもたちにもっと利用してもらってはどうか。」との意見がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
大原幽学関係史料（資料）や地域の文化財等を収集、調査・研究、保存、公開するほか、学校の学習に利用してもらう。	市内外の幅広い年代層を対象に、大原幽学や地域の文化財の資料を常設展示、企画展示で広く公開し、希望者（主に団体）には展示説明を実施する。	大原幽学をはじめ、地域の歴史について興味、理解を深め、郷土愛の醸成に寄与する。	文化財の保護	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

●常設展（通年）
●企画展・館外展示
「収蔵品展2023」:（R5.2.21～R5.5.14）
「大原幽学展」:於海上ふれあい館　5/2～5/16
「干潟八万石物語」:R5.11.25～R6.6.16
●普及活動
「勾玉つくり」全3回　参加者79名
「布ぞうりつくり」全10回　参加者84名
「古文書講座」全24回　参加者255名
「茶道教室」全24回221名
●文化財調査
専門調査員による館所蔵資料の解読調査を実施し、「記念館報告10号」を刊行
●小中学校社会科見学
市内小学校の3年生による昔の道具調べ、4年生による偉人調べ、中学校による地域学習
●館内環境維持
粘着シート、燻蒸による害虫駆除、超音波、食毒剤によるネズミ等防除

② 活動指標

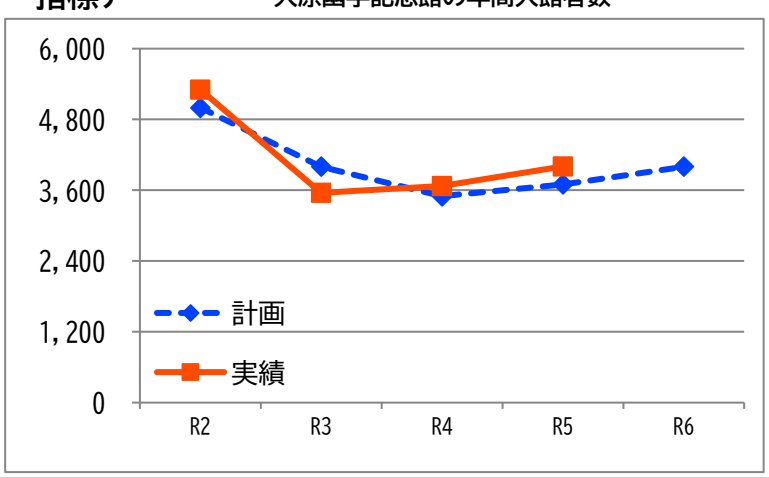
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	記念館開館日数	日	計画	309	300	298	298	302
			実績	257	299	298	301	
イ	講座・企画展開催回数（延べ）	回	計画	89	72	70	85	85
			実績	75	75	84	83	

③ 成果指標

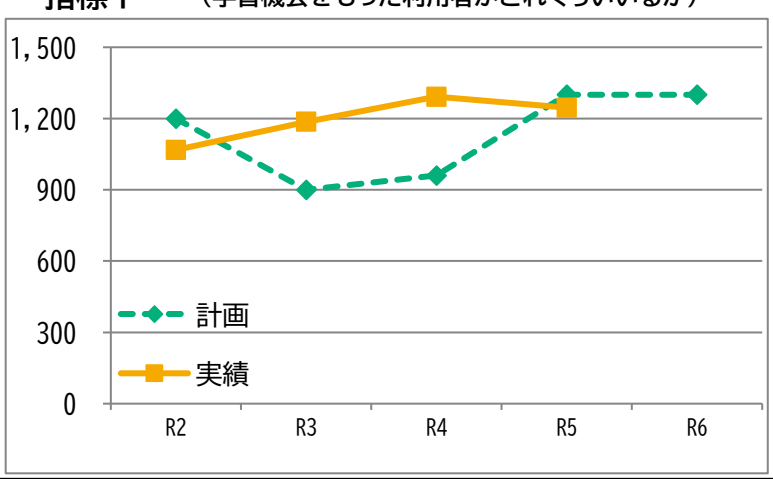
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	大原幽学記念館の年間入館者数	増やす	人	計画	5,000	4,000	3,500	3,700	4,000
				実績	5,307	3,556	3,669	4,005	
イ	講座受講者延べ人数（学習機会をもった利用者がどれくらいいるか）	増やす	人	計画	1,200	900	960	1,300	1,300
				実績	1,068	1,186	1,292	1,246	

④成果指標の動向

指標ア　大原幽学記念館の年間入館者数



指標イ　講座受講者延べ人数（学習機会をもった利用者がどれくらいいるか）



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 賃金	2,101	2,160	6,531	4,430	5,505
	2. 報償費	963	973	1,103	1,015	1,183
	3. 需用費	6,811	3,282	6,467	8,126	6,197
	4. 委託料	2,536	2,149	2,071	3,901	2,219
	5. その他	2,507	1,093	1,881	1,420	2,039
	合計	14,918	9,657	18,053	18,892	17,143
財源内訳	国・県支出金	2,502			3,332	
	地方債					
	その他	979	485	485		
	一般財源	11,437	9,172	17,568	15,560	17,143
	一般財源の比率	76.7%	95.0%	97.3%	82.4%	100.0%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.賃金	活動費:会計年度任用職員報酬、職員手当、交通費
2.報償費	活動費:講師謝礼、研究員報償費
3.需用費	管理費＋活動費:光熱水費、修繕料、消耗品、印刷費、図書購入、ガソリン代
4.委託料	管理費＋活動費:保守（浄化槽・電気・消防・EV）、消毒、害虫防除、清掃等
5.その他	旅費、役務費、使用料、賃借料、備品

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	文化財保存整備事業費補助金　文化財保存整備事業費補助金
地方債	
その他	入館料

⑤ R4→R5　増減理由

<減額>
・会計年度職員の退職と新規採用による賃金単価の変更
<増額>
・県150周年事業として、特別展「干潟八万石物語」に係る印刷製本費(ポスター、チラシ、パンフレット)、映像制作委託費

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	新聞、雑誌等での告知、宣伝等を契機とする来館者が増加した。 小学4年生には、記念館を見学してもらえるよう、地域の偉人である幽学の生涯と事績をテーマとしたまんがを配付している。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	向上	千葉県誕生150周年事業に係る特別展「干潟八万石物語」の取材記事が新聞等に掲載されたことにより、来館する人が多かった。インターネットが普及していても、新聞は、情報を発信し、それを受け止める効果は大きい。高い年齢層では、新聞から地域の動向の情報を収集している人が多い。
	指標イ	好調維持	体験を伴う講座は、講師と参加者が対面することにより成り立つことから、一度の参加者数は限定される。職員数、他の行事日程の関係から、体験行事の数を増やすことは難しいが、応募は一定数集まっていることから、現状を維持する。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		・目標とする対象者の志向に留意した情報発信を心掛ける。 ・時事問題にも関連するような企画展テーマを取り上げ、幽学、文化財、歴史に関心を惹きつける工夫をする。

事務事業評価シート　令和 5 年度事後評価・決算

令和 6 年 11 月 1 日

事業コード・事務事業名	42300	大原幽学遺跡史跡公園管理費（整備費含む）

施策体系		
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	28	文化財の保護
戦略事業名	131	大原幽学遺跡史跡公園の充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	10
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成2年度			
根拠法令	文化財保護法			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☑ 過疎地域持続的発展計画
- ☑ R5主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

国指定史跡44,537㎡をふくむ総面積60,482.13㎡の公園を管理活用する事業である。恵まれた自然環境と史跡を活用し、文化財の保護と併せ、市民が地域の文化に触れ、また憩いの場となるよう整備する。

維持管理として、臨時職員2名により清掃、草刈、建物の開け閉めなどを行っている。また、業者委託により園内の緑地管理、防災設備の保守、水田の耕作等を行っている。また、必要に応じて指定文化財の修理、整備を行う。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

国指定史跡大原幽学遺跡が昭和56年干潟町に寄贈されたことから、公園として整備がされ、平成2年に史跡公園として竣工した。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

園内施設の老朽化や取り壊しなど公園としての整備がすすんだ。キャンプ場は平成21年度で廃止。史跡の公有化も行い、水田や住居跡地の活用が課題となっている。

東側の駐車場から公園まで距離があり、傾斜地でもあることから、高齢者、足腰に不安のある人には利用しずらい、また園内の遊歩道が歩きづらい、案内表示がわかりにくいとの声がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
国指定史跡の建造物、緑地、水田、墓等施設のほか、県指定建造物の管理及び「遺跡整備基本計画」に基づく史跡の再整備を行う。	市内外の観覧者に憩いの場を提供するために、下草刈り、危険樹木の伐採、園路整備等環境を整備する。	幽学の事績について追体験し、地域の歴史について興味、理解を深め、郷土愛の醸成に寄与する。	文化財の保護	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R5の主な活動や実績

●修繕・工事
・滝用ポンプ修繕
・防災設備更新工事
●委託
・保守管理（緑地、浄化槽、消防設備、水田等）
・防災設備更新工事監理
●発掘調査
・改新楼跡地
・教会所跡地

② 活動指標

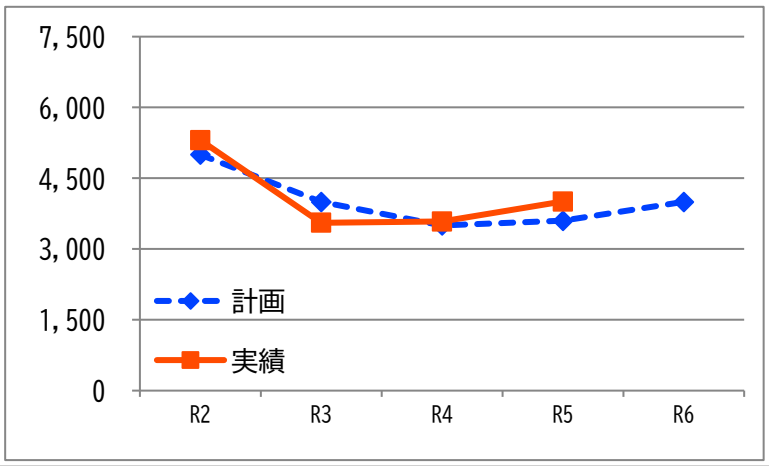
	活動指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	開園（記念館開館）日数	日	計画	309	300	298	298	302
			実績	257	299	298	301	
イ	修繕、工事件数	件	計画	4	4	2	3	3
			実績	9	9	5	2	

③ 成果指標

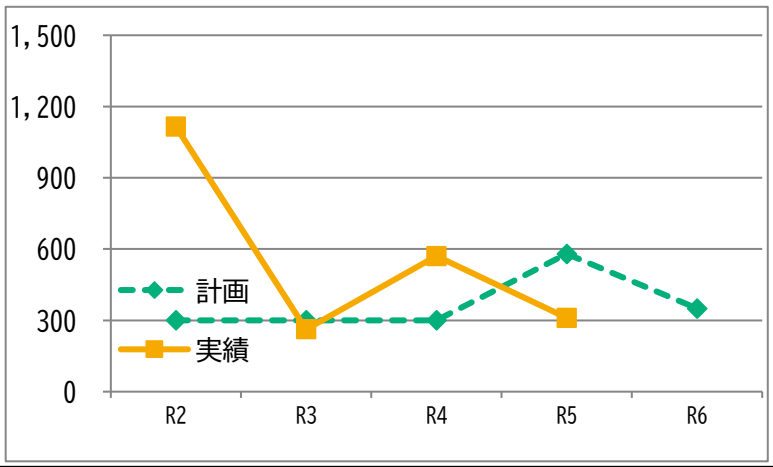
	成果指標	方向性	単位		R2	R3	R4	R5	R6
ア	大原幽学記念館の年間入館者数	増やす	人	計画	5,000	4,000	3,500	3,600	4,000
				実績	5,307	3,556	3,581	4,005	
イ	市内在住の入館者数	増やす	人	計画	300	300	300	580	350
				実績	1,115	262	570	311	

④成果指標の動向

指標ア　大原幽学記念館の年間入館者数



指標イ　市内在住の入館者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
費目内訳	1. 賃金	2,553	2,494	2,985	3,397	3,720
	2. 需用費	471	821	412	227	469
	3. 委託料	5,133	10,817	8,692	9,818	37,221
	4. 工事請負費	1,731	1,683		53,240	66,550
	5. その他	905	1,038	1,046	1,086	1,076
	合計	10,793	16,853	13,135	67,768	109,036
財源内訳	国・県支出金		3,757	2,560	21,617	41,446
	地方債				35,800	34,490
	その他					
	一般財源	10,793	13,096	10,575	10,351	33,100
	一般財源の比率	100.0%	77.7%	80.5%	15.3%	30.4%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	3	人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R5決算)

1.賃金	会計年度任用職員報酬、職員手当、交通費
2.需用費	光熱水費、燃料代、消耗品
3.委託料	緑地管理、防災保守等
4.工事請負費	公園改修工事、看板改修工事
5.その他	労災保険料、役務費、使用料及び賃借料、備品購入

④ 特定財源の詳細(R5決算)

国・県支出金	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金　文化財保存整備事業費補助金
地方債	
その他	

⑤ R4→R5　増減理由

<減額>
・修繕費(発生なし)
<増額>
・発掘調査に伴う賃金。
・防災設備更新工事に係る工事費、監理費

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	令和3年度に策定した整備基本計画に基づき、公園整備を実施する。令和5、6年度の防災設備更新工事により、消火ポンプの安定した起動、放水銃、消火栓の見直しによる初期消火体制の強化を図る。6年度以降は、排水整備、斜面崩落防止、園路整備、駐車場整備等を進める。その財源の大半を補助金、過疎債を予定することから、全体の事業の優先順位、各事業規模を考慮して計画する。
② 成果指標の推移（R4→R5）	指標ア	好調維持	少しずつではあるが、来園者が増えている。新聞記事、SNSによる情報発信等が効果をもたらしている。
	指標イ	伸び悩み	令和4年度の企画展は、「熊野神社の御神幸」という12年に一度という希少な行事をテーマとしたことから市内の関心が高かった。5年度は、新聞に取り上げられたこともあり、干拓という一大歴史的事業について、市外、県外者の注目を集めた。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR6以降の方針）	継続実施		・整備基本計画に基づき、引き続き史跡の価値を高める防災設備更新工事、斜面崩落防止、降雨時のぬかるみ解消、排水整備、園路整備、駐車場整備を実施する。